

A horizontal collage of circular images, each with a colored border, depicting various elements of food and agriculture. From left to right, the circles contain: a brown chicken (orange border), a cow in a barn (red border), a person speaking at a podium (blue border), a bunch of orange carrots (yellow border), a close-up of rice stalks (green border), a white orchid flower (light blue border), a cluster of red tomatoes (red border), a head of green lettuce (light green border), a person planting a seedling in soil (dark blue border), and a wooden crate filled with yellow potatoes (orange border). The circles are arranged in a slightly overlapping, wavy line across the page.



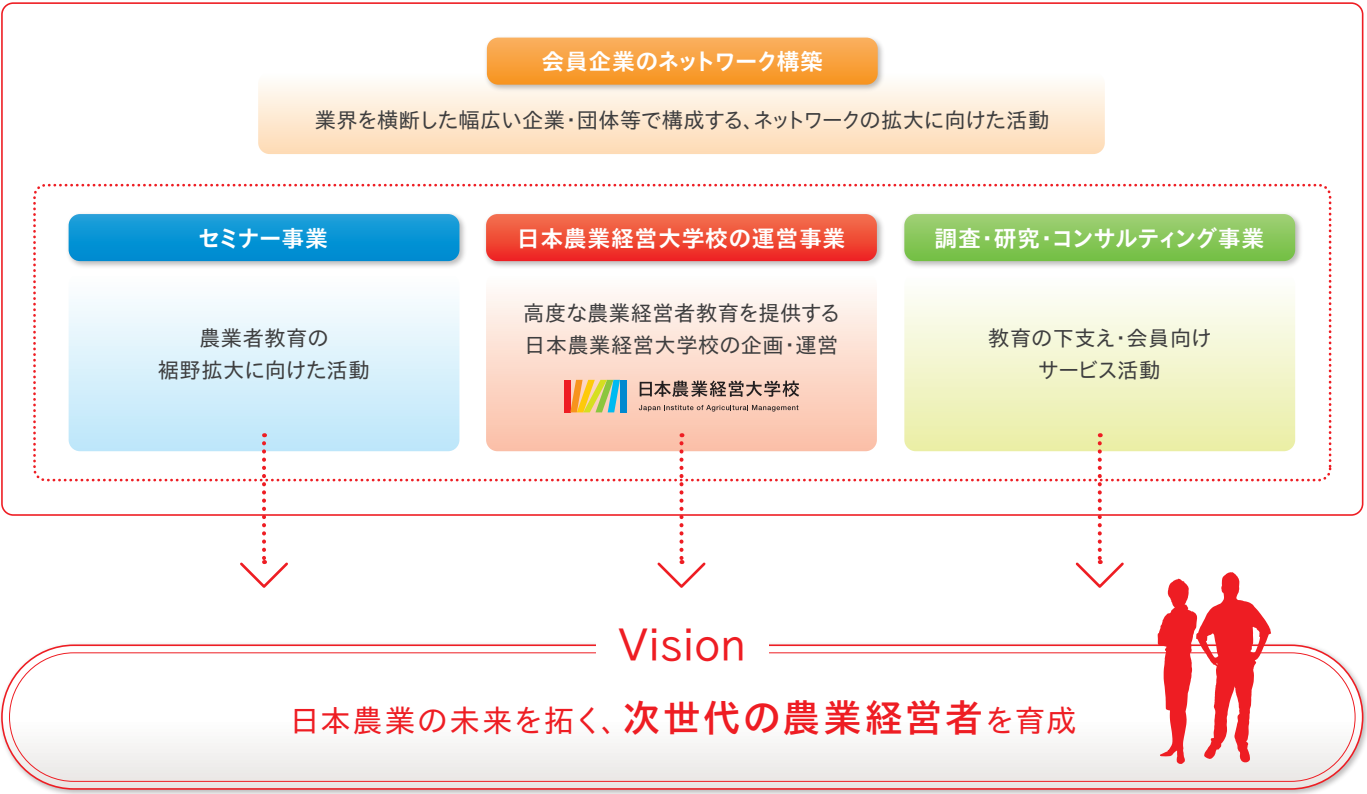
日本農業経営大学校
Japan Institute of Agricultural Management

日本の農業を切り拓く、農業経営者へ。

あなたの未来。農業の未来。 日本の未来がここにある。

アグリフューチャージャパンの事業概要

「日本農業経営大学校」は、一般社団法人アグリフューチャージャパンが運営しています。



農業に期待される役割は、ますます高まっています。
誰もが安心して食べることのできる、安全で美味しい食を守ること。地域経済、地域社会に活力を与えること。
今こそ、農業経営者が新しい価値を創造していく時代です。
日本農業経営大学校は、熱意と志を持ったあなたに一流の農業経営者、地域農業のリーダーへと育ててもらいたい。
そのために、様々な工夫をこらした教育を提供します。
あなたが一歩踏み出すことで、日本の農業は可能性を広げる。日本の未来は、あなたと共に育つのです。

農業の可能性を具現させる農業経営者の育成に、オールジャパン体制で取り組む。

わが国の農業は、農業生産額・農業所得の減少、農業者の高齢化、耕作放棄地の増大などの困難な課題に直面している一方、農山漁村の持つ潜在力、倍増する世界の食の市場、世界的な日本食の広がりなど、成長の可能性を秘めていると言えます。政府においては、農林水産業や食品産業は地域経済を支える重要な産業であり、農林水産業の成長産業化を実現していくことで地域経済を活性化し、雇用と所得を増やしていくことを政策の基本に置いています。

こうした中で、趣旨に賛同する会員企業や団体をはじめとした多くの皆様のご支援をいただいで一般社団法人アグリフューチャージャパンが設立され、平成25年4月に日本農業経営大学校が東京に開校いたしました。平成27年3月には、本校初めての卒業生を輩出し、北海道から九州にいたる全国各地でそれぞれの農業をスタートさせ、在学中に自ら描いた農業の実現に向けて奮闘しているところです。

本校では、「持続可能な経営を確立できる農業経営者」、「世界的な視野と地域での実践力を兼ね備えたリーダー」を目指す人材と位置づけ、農業界、産業界、学界がバックアップするオールジャパンの体制で農業経営者の育成に取り組んでいます。

農業に対して熱く大きな夢を持つ若者が本校に集い、各分野における一流の講師陣による講義や実習を含む2年間全寮制の濃密な教育カリキュラムの中で、習得した農業経営者に必要な知識と実践力、全国的かつ強固なネットワークをもって、将来の日本の農業と地域を支える農業経営者に成長することを期待しています。



一般社団法人アグリフューチャージャパン
代表理事 理事長
浦野 光人

社会の期待に応え日本農業の明日を切り拓く人材を輩出する。



日本農業経営大学校
校長
堀口 健治

日本農業に求められるのは何よりも「人」です。本校は1学年20名の少数精鋭の授業を通じ、次世代を担う農業経営者で地域のリーダーとしても活躍する人材を育成します。

農業界、産業界、学界からの多彩な講師が皆さんを鍛えることにより、経営者に必要なグローバルな視点や事業構想力、リーダーとして信頼を勝ち得る先進性と人間性、自然を相手に取り組む農業の奥深さを、学び取ることができます。

次世代の経営者は、経営の確立だけでなく、世界的視野で多様なネットワークを構築し、しかも地域に足を下ろし実践することが求められます。農業はさまざまな可能性が広がる魅力的な産業です。あなたも本校で学び日本農業の新たな1ページを開く経営者になってください。

東京に教室を置くメリットは、多くの情報が集まる地域で先端と深層の動きを察知しながら勉強できることです。多様な講師が多方面から集まってくれますので学びの対象が拡大します。物流や商流の変化を見極め、消費の新たな動きも体験できることは今後の発展に役立つことでしょう。

こうした動きや流れをつかむ方法を学び、基礎力を付けて各地に戻れば、地域で自信を持って経営を展開できます。また付属農場を持たない本校の現場の学びは、先進農業経営体での4か月の実習であり企業での3か月の実習にこそあります。

そして2年間、教室と寮で共に学ぶ仲間は生涯の同志になることでしょう。太い人脈を作って活躍の場に定着し、経営を展開させることを期待しています。

目次

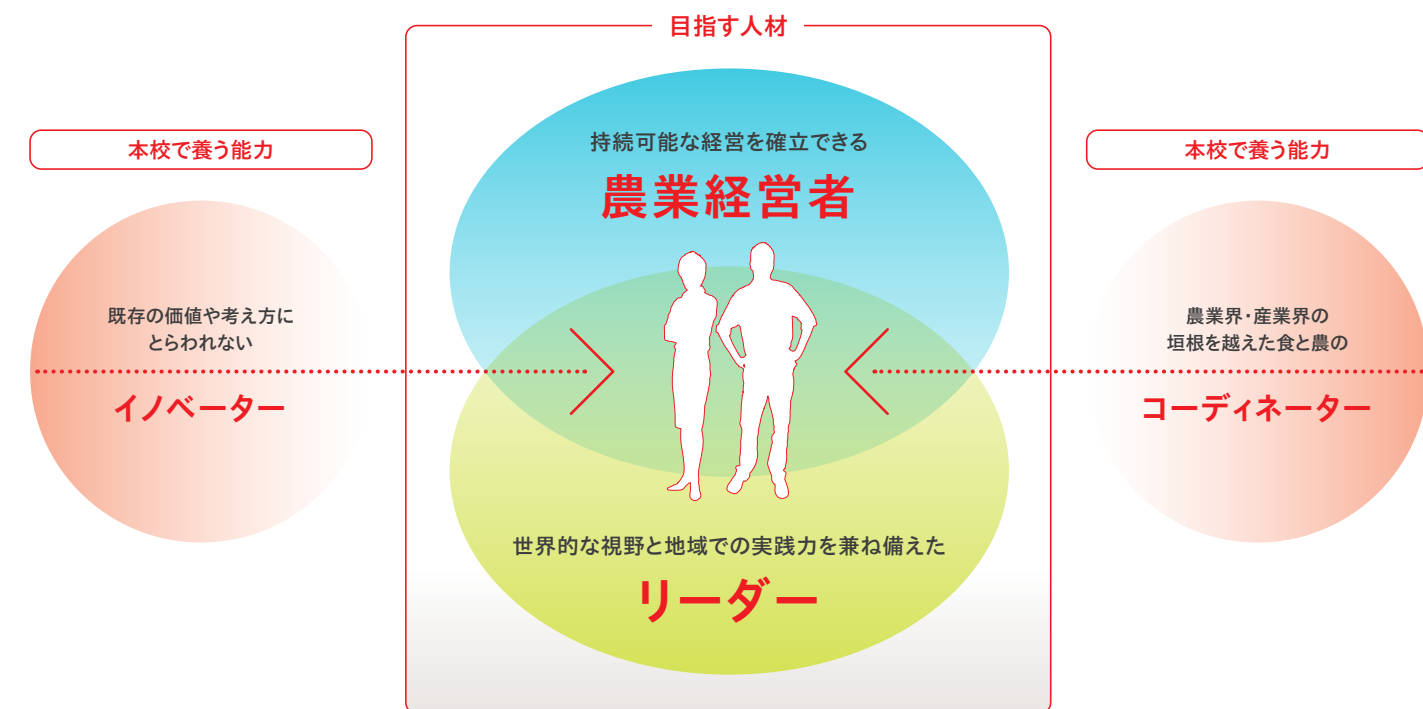
学校紹介	03	ゼミ活動・専任講師紹介	23
各界からのメッセージ	05	農業実習・企業実習	25
〔学生インタビュー〕 私たちの2年間	07	本校ならではの学びと学生生活	27
2年間のスケジュール	11	卒業生・進路紹介	29
〔授業紹介〕 経営力	13	寮について	31
〔授業紹介〕 農業力	15	各種支援について	33
〔授業紹介〕 社会力	17	募集・受験について	35
〔授業紹介〕 人間力	19	よくある質問	37
特別講義	21		

学校紹介

次世代の農業経営者と地域農業のリーダーを育む教育システムが、本校にはあります。

本校が目指す人材像

ますます広がる農業の可能性に対応しうる、多様な個性を育みます。
農業経営者、そして地域農業のリーダーへの成長を目指し、様々な能力を養います。



- 在学中に、学生自らが経営の将来ビジョン及び到達目標を定め、さらに卒業後は、それぞれの現場で不断の実践を重ねることにより、目指す人材像の実現に努めます。
- 本校では、在学中のみならず卒業後も、継続的な学習の機会を提供することにより、目指す人材像への到達を支援します。

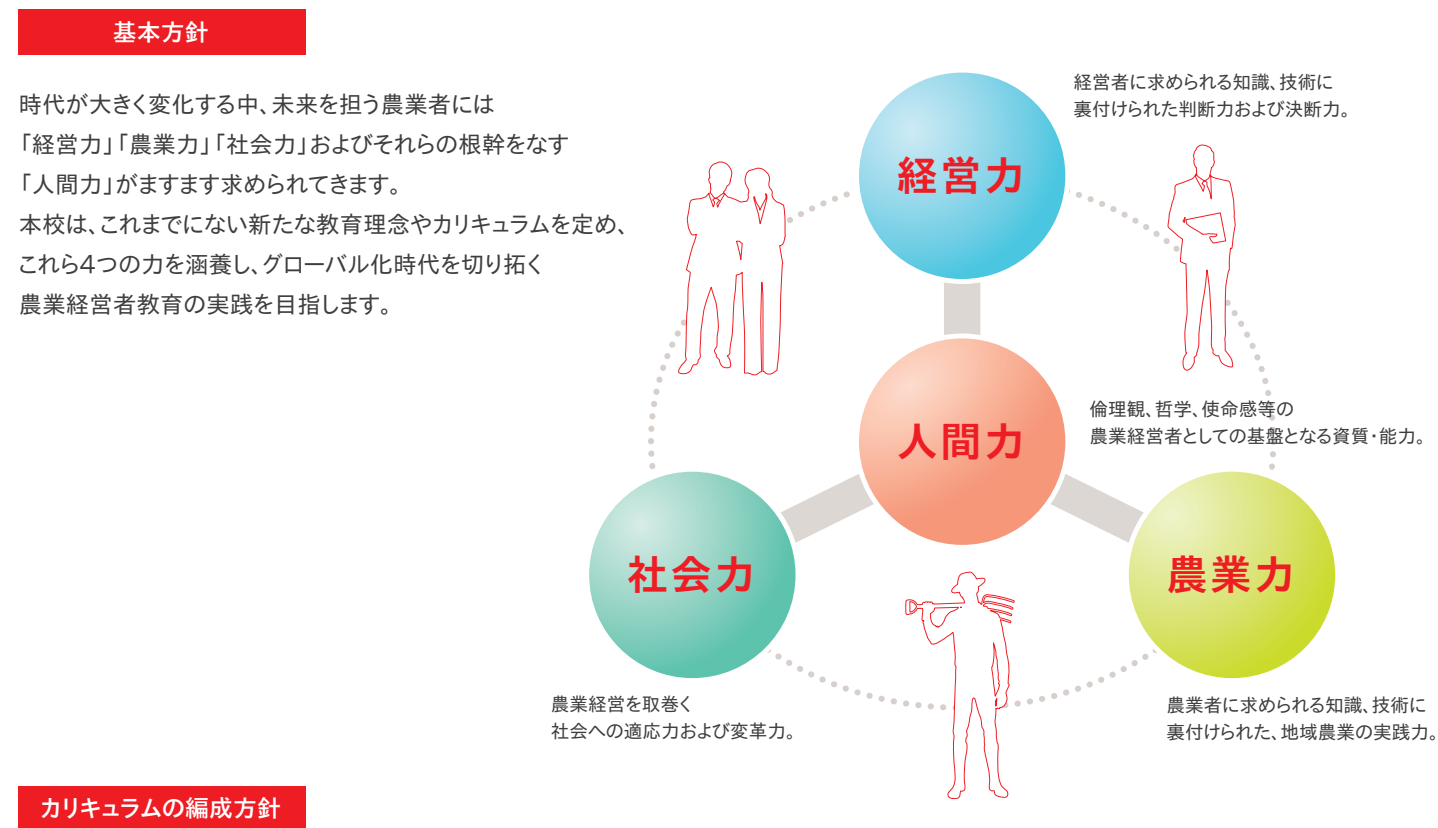
本校の特色

カリキュラム	経営力を重視した科目編成
教育手法	講義はディスカッション、ケーススタディなどを導入。少人数制のゼミを重視し、実習は農業・企業の経営の現場で実施
講師	大学及び研究機関の研究者、経営者、実務者など、第一線で活躍する講師約150名を全国から招へい
学 生	多様な学生が全国から集まり、卒業後は全員が就農
校舎立地	国内最大の情報と人材の集積地である東京に立地
全寮制	全寮制生活を通じた人間力形成と全国的なネットワーク醸成

日本農業経営大学校 概要

〔開 校〕	2013年4月	〔運営母体〕	一般社団法人アグリフューチャージャパン
〔校舎立地〕	東京都港区 (JR品川駅徒歩12分)	〔校 長〕	堀口 健治
〔定 員〕	20名／学年	〔教育期間〕	2年 (講義・演習+現地実習)
〔全 寮 制〕	学生寮最寄駅「JR南武線、武蔵中原駅」(寮から校舎まで約50分)	〔募集対象〕	未来を切り拓く農業経営を志す者 ※詳細はP35をご覧ください。

本校は次世代の農業経営者に必要な4つの力を育みます。



カリキュラムの編成方針

- 本質的な内容の確実な定着を図るとともに、時代の変化および学生のニーズに適切に対応したカリキュラムを編成する。
- ① カリキュラムは、講義、現地実習、ゼミ、総合的学習、卒業研究および特別講義等で構成する。
 - ② 講義の領域は、「経営力」「農業力」「社会力」および「人間力」で構成し、各領域の下に学群を設け、各学群の下に科目を設ける。

卒業研究	卒業後の事業計画の策定や、新たなビジネス企画を構想する教育活動。
ゼミ・総合的学習	教科の枠を超え、課題解決能力の育成を目指す、創意工夫を生かした教育活動。
専任の指導担任を配置	学生自らが課題を発見し、解決できる資質や能力を育てる。自己の在り方、生き方を考えることができるよう支援する。
特別活動	体育的活動、文化的活動等の集団活動を通じ、幅広い経験を積みながら、自主的な態度を育てるとともに、自己の在り方・生き方を考える能力を養う。
全寮生活	2年間の集団生活を通じ、経営者に求められる、自主性・自律性を涵養するとともに、多様な価値観を学ぶ。
AFJ会員とのネットワーク	会員企業や農業経営者等による様々な学びの場を提供。

- (1) 講義・演習
農業界、産業界の経営者、実務家および研究者等を講師として招へいし、講義と演習を有機的に結合させた授業を実施する。講義では、幅広い考え方を示しつつ、多様な考え方や方法等を学び、学生主体によるディスカッション等を通して、自ら進むべき道を見定めることができるようにする。演習は、ケースメソッド(事例研究)を中心として、自ら課題を発見し解決できる能力を育む。
- (2) 現地実習(農業実習4ヵ月間・企業実習3ヵ月間)
先進的農業経営や食品・流通企業等の現場での体験を通じ、各事業のコア・コンピタンス(強み)を理解し、自らの農業経営につなげる。
- (3) 特別講義(週1～2日×2コマ程度)
学生のニーズや時代の潮流を見定めつつ、様々な知見を有する講師による特別講義およびディスカッションを教育の一環として行い、その一部は、広く一般に公開する。

各界からのメッセージ

オールジャパンの支援体制

で、日本農業経営大学校を応援。各界のトップクラスの方々からメッセージをいただきました。



金子 美登 さま

特定非営利活動法人 全国有機農業推進協議会理事長、
一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン代表理事副理事長

人類史の中の大転換の時代。その舞台は美しい田園が織りなす農が間違いなく主役です。そこに、いのち巡る農業・農村という文化を土台に、「むら」と「まち」とが新たなコミュニティ、新たな共同体の復権を目指す時。

そして、食・エネルギー・福祉までを自給・自立・循環する時。その自給の石を各自各地で積み直し、再生・再建する時。

美しい農の世紀を担い、価値ある時を刻む、志高い若人よ、来たれ。

【プロフィール】 1971年 農林水産省農業者大学校卒業後、同年に就農。1999年 埼玉県小川町議会議員に初当選し、2006年 特定非営利活動法人 全国有機農業推進協議会理事長に就任。2012年 一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン代表理事副理事長に就任し、現在に至る。



茂木 友三郎 さま

キッコーマン株式会社 取締役名誉会長

日本農業経営大学校に入学される方には、是非夢と志を持っていただきたい。夢と志は、様々な場面で困難に直面した際に、これ乗り越える力をもたらしてくれます。また、リーダーになるためには、人生の中で、他のことを犠牲にしても懸命に勉強しなくてはならない時期があります。

本校の学生の皆さんには自分の将来に必要な分野を自学自習することを含めて懸命に勉強し、日本の農業経営の分野をリードする存在になってほしい。

【プロフィール】 1935年生まれ千葉県出身。1958年慶應義塾大学法学部卒業後、キッコーマン株式会社入社。1961年米国コロンビア大学経営大学院(MBA)卒業。1995年キッコーマン株式会社 代表取締役社長CEOに就任。2004年同社代表取締役会長CEOを経て2011年同社取締役名誉会長 取締役会議長に就任し現在に至る。公益社団法人経済同友会終身幹事、公益財団法人日本生産性本部会長。

三森 かおり さま

有限会社 ぶどうばたけ 取締役

2013年に誕生し2014年に新校舎を設立した日本農業経営大学校。ますます素晴らしい環境の中、未来の農業を支える人を育てる場所として進化しました。激動の日本。世界情勢も激変する中、日本の農業者が学ぶべき『経営』に特化し高い可能性をもとめ精鋭の学生達が日本国中から集結し、学ぶ寮生活の2年間。環境によって人は変わる。本校はまさに時代と共に進化する大学校と期待します。失敗を恐れず果敢に挑戦してください。

大きな可能性を秘めた日本の農業・農業界の期待の大学校。羽ばたけ世界に。



【プロフィール】 山梨県出身。実家も専業農家の長子長女。短大卒業後、保育士を4年務めて1989年結婚を機に就農。農林水産省 食料・農業・農村政策審議会委員、山梨県総合計画審議会委員を経て、日本農業法人協会理事(現職)、やまと凛々アグリネット会長(現職)。

和田 寿昭 さま

日本生活協同組合連合会 専務理事

日本農業経営大学校での学習は、農業技術の習得に加え、鋭い経営感覚や経営のビジョンを学ぶ機会となるでしょう。生協は、食を中心に消費者に安心・安全な商品の提供とそうした事業を通じて地域社会づくりを進めています。農業生産者と消費者がつながり、生産者や産地を“見える化”することで、より食への安心・信頼が高まります。消費者と協同・連携した農業経営者が増えていくことを期待しています。



【プロフィール】 1960年岐阜県生まれ。1984年新潟大学を卒業後、東京大学消費生活協同組合に入協。東大生協専務理事を経て、2003年12月より全国大学生生活協同組合連合会専務理事を8年間勤め、2011年9月日本生活協同組合連合会に異動し、2013年6月より現職(運営・組織分野を担当)。



江戸 龍太郎 さま

エスビー食品株式会社 顧問

日本の農業技術は世界のトップクラスと認識しています。また、日本の食品加工・製造・配送技術もまた、同様に一流と自負しています。これらの技術を日本そして世界の為に役立てるには、「志の高い人材」が必要です。日本農業経営大学校は自律性のある志の高い農業経営者を育む教育機関です。当校での学びを通じて、自然環境保全を心がけると共に、一人ひとりの個性を生かしたチームワーク創りで持続性ある地域社会作りをリードし、将来の日本の農業界を牽引する「若き農業経営者」としてご活躍いただくことを強く期待しています。

【プロフィール】 1952年香川県生まれ。1976年早稲田大学理工学部卒業後、エスビー食品株式会社入社。2005年エスビー食品株式会社 代表取締役社長、2011年同社取締役会長を歴任し、2014年より現職。



河野 良雄 さま

農林中央金庫 代表理事理事長

農林中央金庫では、次世代を担う農業者の育成を本来業務の一つと捉えており、その中で、本校の教育活動を、メインスポンサーの立場から全面的にバックアップしています。本校では、他では得られない様々な体験ができ、幅広いネットワークを築くことができます。さらに、全寮制の共同生活で生涯の仲間も得られます。

是非一歩を踏み出し、地域農業のリーダーを目指してください。私たちは、在学中のみならず就農後も見据え、皆さんの農業経営の成功に向けサポートしていきます。

【プロフィール】 1972年3月に京都大学農学部卒業後、同年4月に農林中央金庫に入庫。宮崎支店長や(株)農中信託銀行への出向等にて様々な業務に携わり、常務理事・専務理事・代表理事副理事長を経たうえで、2009年4月より現職。

私たちの2年間

授業や実習、ゼミ、仲間、寮生活など。
2年間を振り返り、本音で語ってもらいました。



〈第2期生〉
森下 信義

1991年 富山県生まれ
東京農業大学卒

〈第2期生〉
澤井 知夏

1994年 千葉県生まれ
千葉県立船橋高等学校卒

〈第2期生〉
星野 浩章

1986年 群馬県生まれ
城西大学卒
元 IT企業勤務

まず入学動機を教えてください。

森下:この学校のことは大学の講義で知りました。実家が富山県でスイカを作っているので、家業を継ぐためにもっと深く勉強したかったのと、東京でいろんな経験や人脈も得たかったので入学しました。

澤井:私は最初、大学の農学部を志望していました。でも将来就農するなら、農業と経営の両方を学んだほうが良いと思い、この学校を選びました。幸い試験には合格しましたが、実家は農家ではなくて農業経験もなかったので、1年間研修を受けてから入学しました。

●入学前研修について…P.35、P.37

星野:私は企業に勤めていましたが、職場の移転を機に退職し、家業を継ぐことに決めました。この学校は企業実習もあり、農業以外にも学べるところに惹かれましたね。親も「東京でいろんなつながりを作ってこい」と快く送り出してくれました。

入学した時の第一印象はどうでしたか？

森下:私は同級生の中で一番早く入寮したのですが、キレイで住みやすそうだなと思いました。そして大浴場に行ったら先輩がいて、「どうしてこの学校に入ったか？」とか「学校生活はどんな感じか？」などいろいろ話していたら、気づけば2時間も経っていて。気さくで

話しやすい人ばかりでホッとしましたね。

澤井:私はやはり男性が多いなと感じました。あと、19歳の時に入学したのでまわりは年上ばかりだろうと思っていましたが、意外と同年代の人もいて安心しました。

星野:1期生と3期生は20代後半も何人かいますが、2期生は全体的に若いですね。私もまさか自分が最年長とは思いませんでした。

澤井:校舎も新しくてキレイですし、設備もすごく整っていてビックリしました。学生40名のためにここまで手厚くしてくれるのは、ありがたいです。

●校舎について…P.28

校内での圃場を使った技術実習がないことは、どう思いましたか？

森下:特に気になりませんでした。技術は実家に帰れば身に付きますし、何より私は経営を学びたかったので。

澤井:入学前研修でいくつかの農場へ行きましたが、必要な技術は農場によって違うので、就農後にそこのやり方を覚えれば良いと思います。私の就農先は今までにまったく経験のない米や畜産の農場ですが、もし学校でトマトの技術を学んでいたら出会えなかったかもしれません。そう考えると、特定の技術に絞らなくて良かったと思います。

農業実習で得たものはなんですか？

森下:私は知人に紹介された福岡県の農場へ行きました。作業の段取りを決めたり、現場へ指示を出したりと、求めている経験ができて満足しています。

澤井:私は都会育ちで、農村で生活することに不安がありました。そこで、移住者支援がどのように行われているかを調べ、良さそうな地域を探したんです。見つけたところをちょうど



学校職員の方が知っていたので、紹介していただきました。実際に行ってみると意外となんとかなるもので、わずか4ヵ月の滞在でしたが、「ウチを継がないか」なんて言ってもらえてうれしかったですね。

星野:私は実家がトマトを栽培しているのですが、人手不足で悩んでいて。効率の良いやり方を学べそうな農場をインターネットで探して電話しました。でもなかなかOKしてくれるところがなくて、最終的に先輩のツテも頼りつつ2つの農場へ。実習での一番の収穫は、マネジメントのノウハウです。経営のトップとして従業員を引っ張る姿を、間近で見て学ぶことができました。

●農業実習について…P.25

企業実習で得たものはなんですか？

森下:私は実習先に、大手食材宅配ネット

スーパーを選びました。理由は、ゼミで学んだ「ロジカルシンキング」をもっと学びたくて、その講座を同社が手がけていたから。また、将来地元に戻った後も東京とつながりを持っていたかったので、東京の有名企業である同社にしました。実習後も社員の方とメールでやりとりしたり食事へ行ったりと、良いお付き合いが続いています。

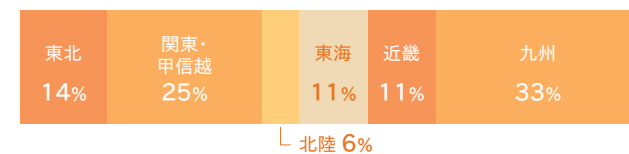
星野:私は大企業のやり方を見てみたかったので、会員企業の1つである大手食品メーカーへ行きました。そこで得た学びは、会社をうまく機能させるためには、製造現場のサポート体制を整えなくてはならないということ。作業効率を上げるためにも雇用を増やすためにも、会社がある程度大きくなったら、やはり現場と事務部門は分けたほうが良いと実感しました。

●会員企業について…P.37

〔2016年度〕学生の属性 年齢や経験等、様々なバックグラウンドを持つ学生が、全国から集っています。

1・2年生

●出身地域



●入学時の年齢



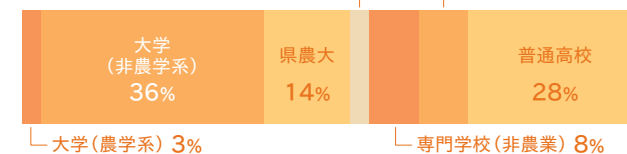
●男女比



●農家・非農家



●最終学歴



●社会人経験の有無





澤井:私の実習先はインターンシップや起業支援などを行うNPO法人で、そこの講演会に参加し、その場で直接「実習に行かせてほしい」とお願いしたんです。実習中は社外の人とのやりとりもさせていただき、ビジネスマナーも学べました。社員の方も尊敬できる人ばかりで、ものすごく忙しかったけどものすごく楽しかったです。さらに、出張で行った鳥取県の農場で就農することになり、そこでの取り組みを卒業研究のテーマにしました。

● 企業実習について…P.26

ゼミで得たものはなんですか？

澤井:ゼミは学校生活の中心でした。1年次に事業計画を立てて、それに沿って動きなが

ら徐々に固めていく感じです。課題も多かったので大変でしたが、かなり鍛えられましたね。

森下:先生は知識が豊富でどんな質問にも答えてくれて、まさに「歩く図書館」。また、研究発表会には農業以外の専門家を呼んで、私たちの世界を広げてくれました。

● ゼミについて…P.23

印象に残っている授業を教えてください。

星野:「農業経営の会計・ファイナンス」は、農業の視点で簿記を学べるのが面白いです。数字から何が読み取れるかを学生全員に聞いていき、ひとつひとつ丁寧に解説して下さる森先生は、本当にすごいと思いました。

● 授業紹介「経営力」について…P.13

澤井:私は「世界の食料・農業政策」も好きでした。ドイツの農業政策で自分のやりたいこととリンクしている部分が結構あって、参考になりましたね。

● 授業紹介「農業力」について…P.15

「協同組合論」の小林先生は、一般論ではなく違う角度から本音で話してくださるので印象的でした。こういう考え方もあるんだなと、新たな発見になりましたね。

● 授業紹介「社会力」について…P.17

「経営者としてのリーダーシップ」の古山先生のお話は、とにかく説得力があります。「この学校と学生たちのために」という思いがすごく伝わってきて、私たちもそれに応えなきゃと思いました。

● 授業紹介「人間力」について…P.19

特別講義はどうでしたか？

森下:農業とは違う分野の人から話が聞けるので、目線が変わって面白いです。テレビで見ると有名な方も来てくれますしね。

澤井:講師も内容も質沢なので、学外セミナーだったら受講料は相当高いと思いますが、それを無料で受講できるのはうれしいですね。さらに学生が呼びたい人をリクエストできるのも魅力です。

● 特別講義について…P.21

寮生活はどうでしたか？

森下:私は部屋で本を読んで過ごすことが多かったです。でも飲みに行きたいなと思ったら、すぐに部屋をノックして誘うこともできる。それはやはり寮の良いところですね。

星野:私は土日のうち1日は寮でゆっくり過ごし、1日は飲食関連のイベントや、リサーチ

も兼ねて話題の飲食店へ。メディアで取り上げられたお店にすぐ行けるのは、やはり東京ならではの魅力だと思います。

澤井:私は寮の食事がありがたかったです。自分で料理をしたいという人もいますが、朝晩あったかいごはんを用意してもらえるのはうれしいですね。

森下:それぞれの実家から米や肉や野菜が届いて、それをみんなで食べるのも楽しみのひとつでした。

● 寮について…P.31



学生同士の関係はどうですか？

澤井:人数が少ないので、みんながどこで何をやっているかがわかるし、刺激になります。

森下:年齢層が幅広いので、相談するといろんな意見が聞けて視野も広がりますね。

星野:何人か実家に遊びに来てくれたことがあります。全国各地から学生が集まっているので、地域や作物による違いもわかって面白いですね。

卒業生とのつながりがありますか？

森下:ゼミの発表会に、先輩全員が来てフィードバックをくれたのがありがたかったです。

澤井:就農地が近い先輩とは、一緒に何かやろうと話しています。どんな展開になるか楽しみです。

● 卒業生・進路紹介について…P.29

青年就農給付金は利用しましたか？

星野:青年就農給付金のことは入学してから



知りましたが、ありがたく使わせてもらおうと思いました。

森下:私は入学前から知っていて、最初から利用するつもりでしたね。

澤井:私も青年就農給付金をもらえることが、この学校へ入学する後押しになりました。やはり学費を全額負担するのは厳しいので、とても助かります。

● 青年就農給付金について…P.35、P.38

2年間でどんなところが成長できましたか？

森下:大学時代の友だちに会うと、「変わったね」と驚かれます。以前はまったく本を読まなかったのですが、この学校に入学して読書が好きになり、とにかくたくさん本を読みました。おかげで視野が広がり、自分の考えや意見もはっきりと言えるようになりました。

澤井:私は農業も経営も知識・経験ともにゼロの状態入学したので、成長したというより、せざるをえなかったというほうが正しいかもしれません。一番大きな変化としては、物事に対する「考え方」がより深まったような気がします。

星野:私は5～6年後には、経営目標を達成できるところまで来ていると思います。こんなに早くここまで到達できたのは、やはりこの学校で学んだおかげだと思います。

将来の目標を教えてください。

森下:まずは地域農業のリーダーを目指し

ます。そしてその先は大きなことにどんどんチャレンジしていきたいです。

星野:地元にはまだ就職できる場所が少ないので、雇用を生み出していきたいです。そして、以前勤めていた企業の売上げ額60億円を超えたいです。

澤井:自分のように農業と接点がなかった人も、農業が将来の選択肢のひとつになればいいなと思います。そのために、農業がもっと働きやすくなる仕組みを作っていきたいです。

——みなさんの目標がかなうよう願っています。森下さん・澤井さん・星野さん、ありがとうございました。



2年間のスケジュール

農業と向き合い、農業経営の本質を見極める。学びを実践に活かす仕組みがあります。



未来を切り拓く農業経営を実践する

- 4月上旬 入学式
- 4月中旬～ 学校行事



入学式



ソフトボール大会



先進農業経営体等視察研修



学校行事



会員企業交流会



卒業式

- 12月上旬 会員企業交流会

- 2月中旬 卒業研究発表会
- 3月上旬 卒業式

※自家が農業を営む者は原則3ヵ月以上、それ以外の者は原則6ヵ月以上。高等学校卒業見込み者は1年程度の事前農業実習が必須。詳しくはP35をご覧ください。

※2016年4月現在で予定している教育計画です。



経営者に求められる考え方や知識を学び、意思決定ができる資質、能力を身に付けます。

経営戦略、マーケティングから、農業簿記・会計に至るまで、多岐にわたる講義が展開されます。

さらに、ケース・スタディやディスカッションの機会も取り入れられ、実践的な内容となっています。

学群	科目	主な講師陣	概要
経営力入門	マーケティング入門 【1年次前期】	松尾 和典 (日本農業経営大学校専任講師) 折笠 俊輔 (「公財」流通経済研究所主任研究員)	マーケティングの定義や考え方を中心に、基本的な知識を確認する。様々なケースを中心にマーケティングの成功要因を自ら考えることに重点を置く。また、マーケティングに携わっている実務家を招聘し、実践的な話を聴く機会を設ける。
	農業簿記 【1年次前期・後期】	野島 一彦 (学校法人大原学園会計士講座本部教務部課長) 西山 由美子 (税理士、にしまゆみこ税理士事務所所長)	農業簿記検定の教科書・問題集を使用して、簿記の基本から、農業特有の取扱いを踏まえた日常的な記帳、決算時の会計処理、財務諸表の作成までを演習を多く取り入れながら学習し、1年次前期において農業簿記検定3級試験の合格を目指す。また、税務上の取扱いのうち、農業特有の内容を学習する。
経営戦略	農業・食の経営戦略 【1年次前期・後期】	上原 征彦 (昭和女子大学 現代ビジネス研究所特命教授)	農業経営における競争優位を見出し、戦略を立案し、意思決定をするための力、それを実行に結びつける力を身に付けることを目的とする。ケースメソッドを活用するとともに、優れた農業経営者の成功体験を聞き、彼らとディスカッションを深めつつ、より現実的な問題にアプローチしていく。
	農業経営学 【1年次前期】	南石 晃明 (九州大学大学院農学研究院教授) ほか	学際的・国際的な視野に立って農業経営発展に資する経営管理の理論と方法について学ぶ。農業は地域に根差した産業であるが、次世代の農業経営には、他産業や海外農業の動向・発展方向についても理解をし、地球的・長期的な視点から経営戦略の策定とその効果的な実行を行うことが求められている。そこで、多様な農業経営の発展過程とその経営管理について、理論および方法の両面から理解すると共に、実践的な農業経営管理手法を身に付ける。
	情報戦略の理論と実践 【1年次後期】	松尾 和典 (日本農業経営大学校専任講師)	経営・マーケティング活動における情報戦略を幅広く学習し、イノベーションの実現、顧客との新たなリレーションの構築、農産物の販売手法の拡充等、情報をいかに戦略的に活用していくかを実践的に学習することを目的とする。ケーススタディや実践者からの講義等を取り入れた授業を行う。
	アントレプレナー論 【2年次後期】	(調整中)	アントレプレナーの考え方・取り組み方について学ぶ。特に創業者としての経営理念、経営指針、経営戦略の組み立てや、意思決定、人材採用・育成について、経営の実践者を通じて論じていく。また、ゲスト講師と学生、学生間でのディスカッション時間を積極的に設け、学びを深める。
	農業・食の経営組織 【2年次後期】	納口 るり子 (筑波大学大学院生命環境科学研究科教授) ほか	農業経営を人的組織として把握する必要性、従業員採用・研修や経営内の経営情報の集積、後継者の育成方法などについて論じる。中小企業で採用されている人的資源管理の視点やネットワーク型の経営間組織についても考察する。授業は、農業法人の経営者を含む実務者による講義も想定している。

学群	科目	主な講師陣	概要
販売・マーケティング	消費者の心理と行動 【1年次前期】	神谷 渉 (玉川大学経営学部国際経営学科准教授)	消費者が買物や、所有、商品の使用といった消費活動を行う際に、どのような要因が存在するのか、それらはどのように影響し合うのか、それらによってどのような結果が生じるかについて学ぶ。手法について講義後、簡単な実習を通じて基礎の習得を目指す。
	食農連携マーケティング 【1年次後期】	三村 優美子 (青山学院大学経営学部教授) ほか	本講義では、地域社会・農業の価値を活かすマーケティングを食農連携マーケティングとした上で、その基本的な考え方から、実践に至るまで、事例研究、実務家による講演や討論を通じて学ぶ。
	食品流通論 【1年次後期】	大塚 明 (前 日本スーパーマーケット協会専務理事) 高橋 佳生 (「公財」流通経済研究所常務理事)	流通の定義・概念、社会的な役割・機能について、具体的な事例を交えて基本を学ぶ。さらに、流通チャネルの変革や、国際化、法規制といったトレンドに触れる。また、農業・食品産業にかかわる流通情勢についての講義も実施することで、農業経営者として実務で活用できる知識の習得を目指す。
会計・マネジメント	農業経営の会計・ファイナンス 【1年次後期・2年次前期】	森 剛一 (税理士、アグリビジネス・ソリューションズ(株) 代表取締役)	農業経営を数字にて把握することで、利害関係者に的確に説明できる能力を磨く。また、経営計画を策定するスキル、的確な投資判断や資金調達をするための手法を身に付けることを目的とする。授業は演習方式により、経営の課題を受講生間で討論することで、財務諸表の見方や経営分析の手法を学ぶ。
	〔新設〕コーポレート・ファイナンス 【2年次後期】	(調整中)	本講義では、ファイナンスの理論を学び、ファイナンスが企業にとっての「未来」に焦点を置いていることを確認する。資金調達や資金運用に関する知識を獲得し、企業価値を最大化する考え方を学ぶ。
	農業におけるリスク管理 【2年次前期】	池戸 重信 (宮城大学名誉教授、 （一社）日本農林規格協会会長)	農業は自然を相手に生きものを生産する産業であるから、2次、3次産業以上に多様なハザード(危害)が存在し、リスクにさらされる。農業においても今後、経営規模が大きくなり、6次産業化によって事業内容も複雑化するにつれ、リスク管理が経営の命運を左右する可能性が拡大する。この授業では主要なリスクとそれへの対処方法を習得する。
	〔新設〕農業経営の社会的責任 【2年次前期】	(調整中)	本講義では、経営を実践していく中で求められる社会的責任がより戦略的になり、同時に長期的な取り組みとして、経営における大きな課題となってきたことを確認し、今後の戦略としてどのような選択が考えられるかを検討することを目的としている。
	経営者の法律 【2年次後期】	須藤 英章 (弁護士、東京富士法律事務所代表) 足立 学 (弁護士、東京富士法律事務所) 須賀 一也 (公認会計士、須賀公認会計士事務所代表)	農業経営に必要な法律の知識について、実際の事例をもとにしたケースメソッドを通じて学習する。本講義の目的は、法律をただ暗記することではなく、法律の考え方や捉え方、その適用・利用を的確に行うことができる能力を養うことにある。
事業創造・イノベーション	ナレッジマネジメント 【1年次後期】	梅本 勝博 (北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科 名誉教授)	組織経営における知のマネジメントの理論的枠組みと実践方法について理解する。経営を知の創造・共有・活用のプロセスとして捉え、その理論的モデルと実践戦略・手法、情報技術の活用、リーダーの役割などを論じる。
	イノベーション実践論 【2年次前期】	丹羽 清 (東京大学名誉教授)	受講生がイノベーションを実際に起こすにはどうすればよいのかという実践的課題を扱う。まず、イノベーションの基本的考え方を理解して、それらを実践する際の応用上の課題を議論する。ついで、複数の人間からなる組織の中でイノベーションを実際に起こそうとする際の困難さを明らかにして、それらの解決の方法を議論する。
	農業経営改革実践論 【2年次後期】	近藤 修司 (北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科客員教授)	主体的に未来を創り出すという視点から経営改革事例と理論・手法を習得し、自分の改革実践提案書を構築する。経営改革実践者や経営分野・企業戦略分野などのコンサルタントが持っている「診断・課題設定・問題設定・企画構想・組織化人材育成・成果実現」の体系と経営改革実践力を習得する。

経営戦略 農業・食の経営戦略



農業経営の問題点と解決方法を、様々な角度から考えます。

〈担当講師〉
上原 征彦
昭和女子大学 現代ビジネス研究所 特命教授

これからの農業には戦略的な思考と経営者としての判断力や決断力が必要です。本講義では、農業経営における競争優位を見出し、事業を維持・拡大していくための戦略立案とそれを実行に結びつける力を身に付けることを目指しています。農業経営が抱える現実の問題点とその解決方法について、様々な角度から受講者とディスカッションを深めつつ、本講義を通じて多様なアイデアの創出にチャレンジしていきましょう。

自分の経営や地域の「強み」を見つけることが大切です。

〈第3期生〉**野村 雄介** 鹿児島県出身
この講義では、上原先生が、経営する上で必要なことを事例とともに興味深く教えてくださいました。その中で学んだことは「コア・コンピタンス」です。コア・コンピタンスとは、簡単にいうと自身の経営のコア(強み)となるものを事業の中心として、成長していくことです。自分の経営、あるいは地域のコアをしっかりと認識し、地元のまちを元気にしていきたいと思っています。



会計・マネジメント 農業経営の会計・ファイナンス



自らの農業経営を数字で把握し、発展させる力を養います。

〈担当講師〉
森 剛一
税理士、アグリビジネス・ソリューションズ(株) 代表取締役

自らの農業経営を客観的に数字によって把握できるようにするとともに、金融機関などの利害関係者に的確に説明できる能力を磨きます。また、農業経営を発展させるための経営計画を策定するスキル、的確な投資判断や資金調達をするための手法を身に付けることを目的とします。

経営者に必要なファイナンスの基礎知識が身に付きます。

〈第2期生〉**綱島 慶人** 三重県出身
1年次に学んだ農業簿記の知識を活用し、より実践的な学習を行います。実際の決算書から見える経営上の問題とその解決策を、学生同士で議論して摸索。キャッシュフロー計画などのファイナンス知識、今後増えるであろう農業法人のM&Aや大規模農業に必要な管理会計の基礎力を身に付けることができました。また、家族経営、農業法人、農事組合の決算書を見比べて、独立就農時や実家の経営を受け継いだ場合にどの経営形態をとるのがベストなのかも考えました。



農業者に求められる本質的な知識を身に付け、農業の実践力に関わる資質、能力、態度を養います。

講義では農業生産の基礎として作物、野菜、果樹、花き、畜産といった作目ごとに知識を身に付けるとともに

資源、環境、エネルギー、生物多様性等の問題を取り上げ、環境と調和した持続的な農業生産のあり方について学びます。

また、日本と世界の食料・農業の政策、および政策の枠組みを形成している法律を学び、農業経営者に必要な知識とビジョンを養います。

学群	科目	主な講師陣	概要
農業力入門	日本農業論 【1年次前期】	立川 雅司 (茨城大学農学部教授) 小口 広太 (日本農業経営大学校専任講師)	農業が永続する条件を農業技術の観点から分析した後、自然と共生する日本型農業の特徴についてその系譜を辿りながら解説する。さらに、農業の近代化に伴う日本型農業の解体、有機農業や自然農法の取り組みに着目しながら日本型農業の再生について学び、日本における農業と農村の未来について考える。
生物と農業	生物と農業生産Ⅰ 【1年次前期】	平澤 正 (東京農工大学客員教授) 北条 雅章 (千葉大学環境健康フィールド科学センター准教授)	農業は、生物の営みを利用して人間に有用な生産物を得る生命産業である。農業経営者は、工業生産とは異なる農業生産の特質を正しく理解し、植物や動物を科学の視点で観察する目が求められる。このため、植物・動物を健全に栽培・飼育し、生産能力を高めるために必要となる基本的・本質的な知識を身に付ける。生物と農業生産Ⅰでは、作物及び野菜について学び、生物と農業生産Ⅱでは、畜産、果樹及び花きについて学ぶ。
	生物と農業生産Ⅱ 【1年次後期】	小林 信一 (日本大学生物資源科学部教授) 澤登 早苗 (恵泉女学園大学人間社会学部教授) 渡辺 均 (千葉大学環境健康フィールド科学センター准教授)	
資源・環境と農業	資源・環境と農業生産Ⅰ 【1年次後期】	陽 捷行 ((公財) 農業・環境・健康研究所農業大学校校長) 莊林 幹太郎 (学習院女子大学国際文化交流学部教授) 石郷岡 康史 ((独) 農業環境技術研究所主任研究員) 根本 久 (保全生物学的防除研究事務所代表) 宇根 豊 (農と自然の研究所代表)	地球の水・大気・土壌等の環境資源には限りがある。世界の人口を養うためには、農業が持つ物質循環機能を活かし、環境と調和した農業生産を持続的に行わなければ人類の未来はこころもとない。このため、環境資源、エネルギー等の問題を理解して農業経営を営む必要性を学ぶ。 資源・環境と農業生産Ⅰでは、農業と資源・環境との関係、大気環境、植物防疫、生物多様性等について学び、資源・環境と農業生産Ⅱでは、土壌環境、堆肥と土づくり、農業と資源・エネルギーについて学ぶとともに、有機農業の実践者等から様々な取り組みの実践例を学ぶ。
	資源・環境と農業生産Ⅱ 【2年次前期・後期】	陽 捷行 ((公財) 農業・環境・健康研究所農業大学校校長) 小川 吉雄 (鯉淵学園農業栄養専門学校教授) 橋本 力男 (堆肥・育土研究所代表) 葉師堂 謙一 ((独) 農業・食品産業技術総合研究機構バイオマス研究統括コーディネータ) 小林 久 (茨城大学農学部教授) 菅野 芳秀 (農業者、レインボープラン推進協議会相談役) 折戸 えとな (明海大学・早稲田大学非常勤講師) 相原 成行 (有機農業実践者、相原農場代表) 萩原 紀行 (有機農業実践者、のらくら農場代表) 金子 美登 (NPO法人全国有機農業推進協議会理事長、霜里農場代表)	

学群	科目	主な講師陣	概要
食料・農業の政策と法律	日本の食料・農業政策 【1年次前期・後期】	生源寺 眞一 (名古屋大学大学院生命農学研究科教授) 安藤 光義 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授) 江川 章 (中央大学経済学部准教授) 室屋 有宏 (桃山学院大学経営学部准教授) 内田 多喜生 ((株) 農林中金総合研究所主席研究員) 長谷川 晃生 ((株) 農林中金総合研究所主任研究員) 小針 美和 ((株) 農林中金総合研究所主任研究員)	初回の講義で日本の食料・農業・農村政策の概要を把握し、続いて量と質の両面から国民の食の安全を確保する政策について論じる。そのうえで農業経営の育成に関わる担い手政策や農地制度の推移と現状、農業経営の成長を支える重要な要素である金融政策や技術政策を学ぶ。さらに地域とともに生きる農業経営という問題意識に立って、農村政策を学習する。
	世界の食料・農業政策 【2年次前期】	生源寺 眞一 (名古屋大学大学院生命農学研究科教授) 市田 知子 (明治大学農学部教授) 石井 圭一 (東北大学大学院農学研究科准教授) 和泉 真理 ((一社) JC総研客員研究員) 平澤 明彦 ((株) 農林中金総合研究所基礎研究部副部长主席研究員) 阮 蔚 (ルアン・ウェイ) ((株) 農林中金総合研究所主席研究員) 三石 誠司 (宮城大学食産業学部教授) ほか	最初の2回の講義で、先進国と途上国の政策と世界の食料貿易の構図を俯瞰する。そのうえで国別・地域別に具体的な政策について学ぶ。先進国については、アメリカとEUの動向を学ぶとともに、イギリス・フランス・ドイツの政策の特色を理解する。さらに、著しい成長を遂げつつあり、日本の農産物の販路としても重要性を増しているアジア(中国など)について、近年の食料・農業政策の動向を把握する。
	食料・農業の法制度 【2年次後期】	高木 賢 (弁護士、元食糧庁長官) 出田 安利 (農林水産政策研究所次長) 松原 明紀 (水産庁漁政部漁政課長) 武田 泰明 (特定非営利活動法人アジアGAP総合研究所専務理事)	食料・農業に関する各分野の政策の枠組みを形成している食料・農業関係諸法律について、食料・農業に関する実態認識及びあるべき方向との関連の下に体系的に習得するとともに、食料・農業の法律に隣接する法領域についても学ぶ。

資源・環境と農業

資源・環境と農業生産Ⅰ



農業と自然との関係を、新たな視点で考えます。

〈担当講師〉
宇根 豊
農と自然の研究所代表

「農業は自然を破壊しているのか、保全しているのか」という問いを考えます。その場合この「自然」という言葉(外来語・翻訳語)が問題なのです。なぜなら、こういう問いは「自然」を外から眺める視点に閉じこもるからです。自然を自然の内側から見ると、つまり人間も自然の一員として見ると、まったく様相は一変します。涙と悔しさと、喜びと感謝なしには語れなくなるからです。一人ひとりがある視点の移行を意識的に身に付けることが大切です。

自分が農業を選択したことに自信が持てました。

〈第3期生〉加藤 瞳 新潟県出身
「畑仕事の中にはお金にならない副産物がたくさん含まれており、景観や様々な生物が育まれる場として大きな役割を果たしている」ということを講義の中で学びました。私は農業を通して環境保護をしたいと考えているので、営農が直接環境保護に繋がるということを知り、農業を選択したことに自信が持てました。人に勧める時にも説得力をもって説明できるようになったと感じています。



食料・農業の政策と法律

日本の食料・農業政策



政策の背景事情や社会的な意義まで理解します。

〈担当講師〉
生源寺 眞一
名古屋大学大学院生命農学研究科教授

政策との関わり抜きに農業経営を構想することはできません。農産物の価格変動緩和策のように収益に直結する政策もあれば、農地集積や設備投資の面で経営の成長を後押しする政策もあります。食品安全や環境保全の制度を知ることも大切です。知識だけでは足りません。政策の背景事情や社会的な意義も理解する。ときには批判的に政策を考える。このような講義のねらいのもとで、政策の現場に精通している講師陣がそろいました。

実際の農業政策に関わるリアルで貴重なお話を聞けます。

〈第3期生〉小口 晋介 山形県出身
今まで農業政策に実際に関わってきた生源寺先生からお話を聞けることに驚きました。先生だからこそできるエピソードも交えながら話してくださったので、最後まで興味深くお話を聞かせていただきました。私は父が農事組合法人の役員を務めており、米の大規模生産をしているため、今までも政策の影響はとても大きかったように思います。今後も政策の影響が小さくないことが予想されるので、先生から直接お話を聞くことができるのはとても価値が高いと思います。



フードシステム、食生活・食文化、食品産業の講義では、農業と深く結びついた食の現状を学びます。

農村地域の活性化に関する講義は、講師も多彩で、学生の出身地域の話も多く聞くことができます。

まさに今後農業、農村、食に携わる上で必ず直面する課題が中心です。

講義を受け、自分はそれらとどのように向き合っていくのかを考えることができます。

学群	科目	主な講師陣	概要
社会力入門	フードシステム論 【1年次前期】	中嶋 康博 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授) 中嶋 晋作 (明治大学農学部専任講師)	これからの食と農を見通すために、それらを支える社会的枠組みの現状と課題を、フードシステム概念を通して学ぶ。食生活の変化、食をめぐる産業、社会的に必要とされる制度の実態と背景を経済学的視点に基づいて、理解して考察できる思考方法と専門知識を身に付けることを目的とする。
	食生活と食文化 【1年次後期】	武見 ゆかり (女子栄養大学栄養学部教授) 宇野 薫 (女子栄養大学大学院栄養学研究科)	地域で生活する人々の多様な「食の営み」を、環境要因も含め構造的に整理し、生活の質(Quality of Life)の向上につながるような望ましい食生活やライフスタイルについて理解するとともに、国際的にも評価が高い日本の伝統的な食事パターンや食文化についての理解を深めることを目的とする。
	食品産業と農業 【2年次前期】	清水 みゆき (日本大学生物資源科学部教授)	食品産業と農業の関係を考えるベースとして、産業構造と日本経済における地位の両面から、食品産業とは何かを学ぶ。農地法改正を機に増加してきた食品企業の農業参入についても、狙いと参入後の様子を知り、農業改革の手がかりとする。最後に6次産業化や食農連携の講義を踏まえ、学生間の討論を通じて農業と食品産業の良い関係づくりの道を探る。
消費者・食生活・食文化	消費者運動と食・農のパートナーシップ 【2年次前期】	宮崎 達郎 (「公財」生協総合研究所)	農業者の経営発展には、消費者との信頼関係の構築が不可欠になる。本講義では、消費者運動の歴史をたどり、今後の農業経営の発展のために必要な消費者との関係づくりについて考察する。消費者団体や生協の実践者のゲスト講演を交え、受講者で意見を出し合い、議論する。

学群	科目	主な講師陣	概要
農村地域の活性化	農山村の再生戦略 【1年次前期・後期】	小田切 徳美(明治大学農学部教授) 莊林 幹太郎(学習院女子大学国際文化交流学部教授) 筒井 一伸(鳥取大学地域学部准教授) 橋口 卓也(明治大学農学部准教授) 図司 直也(法政大学現代福祉学部教授) 神代 英昭(宇都宮大学農学部准教授) 山浦 陽一(大分大学経済学部准教授)	この授業では、第1に、農山村の再生戦略にかかわり、マクロ的状況と従来までの政策の概況を講述する。第2に、多面的な農山村の再生の要素として、「農林業」「生活」「資源・コミュニティ」の各論について論じる。そして、第3に、それらを総合化して、ヨーロッパの農山村再生の動きから学びながら、我が国における農山村の内発的発展の実践的方向性について学ぶ。
	協同組合論 【1年次後期】	阿高 あや((一社)JC総研副主任研究員) 石田 正昭(龍谷大学農学部教授) 北川 太一(福井県立大学経済学部教授) 松岡 公明(農林漁業団体職員共済組合理事長)	この授業では、協同組合を運動(association)と事業(enterprise)の矛盾的統合体として捉え、協同組合の基本原理を踏まえたうえで、今日の協同組合の実態と課題を学ぶ。第1に、協同組合は歴史的な存在形態であるから、成立から今日までを歴史的に整理する。第2に今日の農と食にかかる協同組合として、生活協同組合(消費者購買生協)と農業協同組合(総合農協=JA)を対象として、その運動と事業の展開と仕組みを学ぶ。第3に、地域でみられる「新しい協同」の動きから、協同組合に求められる社会での役割を検討する。この授業では、協同組合論の専門的研究者をゲストスピーカーとして招へいし、具体的な講義を行う。
	集落営農とJA出資型農業法人 【2年次前期】	小林 元 (広島大学助教) ほか	この授業では、集落営農を①「むら」(地域と地域資源)、②「農法」(技術の発展)から捉え、その歴史的発展と今日的な取り組みの実態から集落営農の特徴とその意義を理解することを目的とする。また、集落営農の取り組みは地域の実態に合わせて多様な発展がみられることから、その地帯構成区分に注目して、さまざまな事例とそのリーダーたちの声を実際に聴くことを重視する。さらに、単に集落営農を農業生産の組織化に矮小化することなく、地域づくりの視点から読み解くことで、受講者自身が将来地域のリーダーとして活躍することを期待し、その一助となることを目的とする。
	農村社会と女性 【2年次後期】	安倍 澄子(日本女子大学客員教授) 原 珠里(東京農業大学国際食料情報学部教授)	農業経営をとりまく変化に適応し、また、その変革に向けて農山村女性が取り組む活動状況や問題・課題を理解するとともに、女性活動が地域活性化に運動するための取り組み方や活用すべき諸制度を学び、地域社会の新たな動きを創りだす資質・能力を身に付けることを目的とする。
	地方行政との連携・協働 【2年次後期】	大江 正章 (出版社コモンズ代表／ジャーナリスト) ほか	担当講師には、自治体の首長、政策立案の担当者を招く。これまで進めてきた政策を具体的に紹介し、それらが生まれた背景、現状、達成点、今後の課題について講義していただく。あわせて、これからの農業の方向性、若い農業者に期待される役割を検討していく。

社会力入門 フードシステム論



フードシステムの視点から、これからの食と農の課題を考えます。

〈担当講師〉
中嶋 康博
東京大学大学院農学生命科学研究科教授

農産物が生産された後、消費者に届くまでには、加工業、流通業、飲食店など実に多くの産業が関与しています。それぞれの経済活動や経済部門を総称してフードシステムと言います。それら産業が織りなす有機的関係を理解することなしに、現代の農と食を論ずることはできません。本講義では、フードシステムの視点から、食料消費の動向や食品産業の産業構造を読み解きながら、これからの食と農の課題を考えていきます。

自社商品のターゲットになりうる多くの市場が見つかりました。

〈第3期生〉東 将平 熊本県出身
フードシステム論を学ぶ中で、食料が消費者に届くまでの流れを詳しく知ることができました。それによって自分の中で自社商品のターゲットになりうる多くの市場を見つけることができました。また堅い話だけでなく最新の主婦のニーズや消費動向などの面白い話、新しいフードシステムの形やそれが与える農業への影響などの話もあり、自分の描く農業経営に活かしていきたいと感じました。



農村地域の活性化 農山村の再生戦略



農山村再生に関する理論や実践のポイントをまとめ、講述します。

〈担当講師〉
小田切 徳美
明治大学農学部教授

農山村は、いま動いています。人口減少、高齢化、農林地の荒廃という状況に対して、立ち上がり、課題の解決に向けて、挑戦する地域が生まれています。本講義では、このような「農山村再生」に関する理論や実践のポイントをまとめ、講述します。学生の皆さんは、将来の自分自身の農業経営と地域再生との関係を学んでいただきたいと思います。各地の挑戦を応援する研究者が、分野別に分担し、最新情報や海外情報も含めて論じます。

農山村の現状と課題を、一つ一つ丁寧に学びました。

〈第3期生〉和田 和文 福岡県出身
小田切先生は自身の足を使って得た調査研究を元に、農山村の現状・課題を丁寧に解説してくださいました。全国的に成功しているといわれる地域が、いかに地域づくり・地域みがきを行っているのかを分析。農山村の再生を行う際に見えてくる課題を、一つ一つ掘り下げながら事例を学びました。地域のリーダーは、あせらず慎重に課題を解決していくことが大切であり、当事者意識づくり・地域再生のプロセス・政策の持続性をいかに確保できるかが重要だと教わりました。





リーダーとしての資質や、教養を身に付けます。講師との対話や各自の発表、ディスカッションを中心に講義が進み、一見すると難しそうな内容も、自ら考える時間があるため、いつの間にか講義に集中し、自然と理解できます。どの講義も、経営者・地域のリーダーとしての資質を育成し、農業経営者にとって必要なことは何かを考えさせられます。

学群	科目	主な講師陣	概要
人間力入門	経営者のための経済学 【1年次前期】	清水 徹朗 （（株）農林中金総合研究所取締役基礎研究部長） 小野澤 康晴 （（株）農林中金総合研究所調査第一部部長） 南 武志 （（株）農林中金総合研究所調査第二部副部長）	最初に、農業経営にとって一般経済の動向がどのように影響をもつのか、日本経済の歴史のなかで農業がどのような変化をたどってきたのかという観点から、農業経営と経済について大まかに概観する。そのうえで、経済学の考え方の基本を説明し、農業・農業経営が経済学の視点からどうとらえられるのかを解説する。後半は、主に日本経済を題材にして、新聞等で取り上げられる話題との関連性をもたせつつ、貿易の理論、貨幣と金融、財政について説明し、日本経済の課題について歴史的な経緯も踏まえて説明する。
	経営者のための社会学 【1年次前期】	原田 雄太郎 （日本農業経営大学校専任講師）	第1講ではまず、学生とのディスカッションおよびグループワークを通して社会の多様性や社会学の範囲について知り、経営者として社会学を学ぶ意義について確認する。第2講以降は、家族の変容、自由、格差をキーワードにしながら、それらに対する古典的な捉え方から現代における捉え方・諸相を概観すると共に、ディスカッションやグループワークを通して考えを深める。
	世代と消費 【1年次後期】	三浦 展 （社会デザイン研究者、 （株）カルチャースタディーズ研究所代表取締役）	本授業では、まず日本の人口の変遷とそれに関わる今後の日本の課題等を把握する。そして世代や富裕層に焦点をあてた消費動向とそのマーケティングを学ぶ。
	経営者のための哲学 【1年次後期】	大平 浩二 （明治学院大学経済学部教授）	次世代農業経営者としてわが国の農業を担うために必要な思考上の基盤を身につけ、経営者としての意思や哲学そして農業観を磨く。第一線で活躍する各界の経営者の経営思想・経営哲学に触れつつ、自らの農業経営のあり方を考える。
	経営者のための英語力 【1年次後期】	黒川 恵子（会議通訳）	農業経営に必要な情報がグローバルに行き来する現在、情報を直接読み解く技能が必要であり、実践的英語の基礎力を身に付ける。英語と日本語の発想・表現の違い、交渉の仕方の違いを知り、英語を自分なりに利用・応用する方法を学ぶ。
	経営者のための心理学 【2年次前期】	野田 稔 （明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科教授） 浜田 正幸 （多摩大学経営情報学部・同大学院経営情報学研究科教授） 河合 太介 （経営コンサルタント、早稲田大学大学院商学研究科非常勤講師）	農業経営をおこなう上で知るべき心理学として、一般的組織マネジメントに必要な社員モチベーションや自己認知などの心理学の領域にフォーカスする。それと同時に地域にとけ込み農業という産業に従事する固有の事象に対する心理学である。本講義では、この二つの領域をバランスよく取り扱うこととする。

リーダーシップ 経営者としてのリーダーシップ



信頼や協力を得られる経営者としての資質を培います。

〈担当講師〉
古山 和宏
公益財団法人松下政経塾 顧問

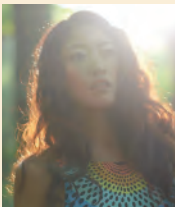
本講義では、経営理念や経営者に求められる条件を検討し、農業経営者のリーダーシップについて考察することによって、地域や農業経営に関係する人々から信頼、協力を得られる経営者としての資質を培うことを目的とします。2年次の「事業計画書」作成に向けた基礎的な講座と位置づけ、授業では、学生同士の検討会、プレゼンテーションを経て、将来の「事業趣意書」を作成します。

農業を通じてどう社会貢献できるかを考えることができました。

〈第3期生〉岩品 孝則 静岡県出身
経営の軸となる事業趣意書の作成を行うことで、農業が抱える現状や問題から、農業をすることでどのように社会へ貢献できるのか、その志の部分を考えることができました。私自身、農業をする上でその部分が曖昧だったので、とても有意義な時間になりました。他にも松下幸之助が残した経営やリーダーシップとは何たるかを学びました。今後経営をしていく中で、松下幸之助の経営信条を参考にしながら、オリジナルのものを確立していきたいです。



特別活動 ヨガ



ヨガやインド式の語らいを通して、心と体を強くします。

〈担当講師〉
羽根 綾子
ヨガインストラクター、Jivamukti Yoga正式指導者

ヨガを通じて心と体の健康を目指します。古くからインドに伝わるヨガの行法や哲学を通して、日々の生活や自分自身との向き合い方、目標に向かう事のインスピレーションに繋がっていきます。授業では、インドに古くから伝わる健康法、呼吸法、アサナ（ポーズ）、マントラ（お経）、クリア（浄化法）などの身体的なアプローチで心と体を強くします。また、サットサンガ（インドで行われる自分の意見や思いを話す機会）にて、毎週異なるテーマについて皆で話し合います。

自分の伸ばすべき点や改善点を考えることができました。

〈第2期生〉森下 信義 富山県出身
心身ともに自分自身と向き合える授業でした。自分がやりやすいポーズや苦手なポーズを通じて、何を伸ばしていけば良いか、何を改善していけば良いかを考えることができました。就農すると自身と向き合う時間が減ると思うので、少しでも取り入れていけたらと思います。



特別講義

ここでだから実現した、農業の可能性を広げる出会いがあります。



特別講義 6単位

農業界、産業界、学界等、各界で活躍する多彩な講師を招へいし、様々なテーマで講義及びディスカッションを行います。
(招へいする講師は年度毎に変わります。)

平成27年度実績

01 伊藤 幸蔵 米沢郷牧場 代表取締役	09 木之内 均 (有)木之内農園 会長	17 出口 治明 ライフネット生命保険(株) 代表取締役会長兼CEO	25 松藤 富士子 (株)ピストロくるん 代表取締役社長
02 浦野 光人 (株)ニチレイ 相談役	10 小祝 政明 (株)ジャパンバイオフィーム 代表取締役	18 端田 晶 サッポロビール(株) 文化広報顧問	26 三森 かおり (有)ぶどうばたけ 取締役
03 大葛 政史 北海道糖業(株) 経営企画部 副主任	11 河野 康子 (一社)全国消費者団体連絡会 事務局長兼共同代表	19 半谷 栄寿 南相馬復興アグリ(株) 代表取締役	27 連 勇太郎 NPO法人モクチン企画 代表理事
04 大杉 立 東京大学大学院 教授	12 後藤 和明 らでいっしゅぼーや(株) 農産部部长	20 平田 周二 (株)東急モルズデベロップメント 経営企画本部 企画部 マネジャー	28 八嶋 実 (株)アサツーディ・ケイ 第2コミュニケーションアーキテクト局 局長 大垣 友紀恵 (株)アサツーディ・ケイアートディレクター
05 岡田 徹 美園いちごランド 代表	13 近藤 隆 (株)近藤農園 取締役	21 福永 庸明 イオンアグリ創造(株) 代表取締役社長	29 山田 勝己 農林中央金庫 農林水産環境統括部長
06 荻原 昌真 (有)信州ファーム荻原 取締役専務 農場長	14 齋藤 弘憲 (公社)経済同友会 政策調査部長	22 藤岡 茂憲 (公社)日本農業法人協会 会長／(有)藤岡農産 代表取締役	30 山田 優 農業ジャーナリスト
07 鎌田 真悟 (株)恵那川上屋 代表取締役	15 宗 和弘 JA全農 TAC推進課 課長 小里 司 JA全農 開発企画室 室長	23 松岡 義博 (株)コッコファーム 会長	31 山本 裕之 (株)ベジアーツ 代表取締役社長
08 川口 祥子 スイーツフォト代表／写真家	16 田中 進 (株)サラダボウル 代表取締役	24 松永 和紀 科学ジャーナリスト／(一社)FOOD COMMUNICATION COMPASS代表	32 農林水産省 審議官、室長 ほか

※平成28年3月までの実績による ※肩書きは当時のもの

受講した学生のコメント



特別講義 10(小祝 政明 先生)

ほうれん草の糖度やビタミンAが、昔と今でこれほどまでに違うとは驚きました。また、高品質・高収量の仕組みがとてもわかりやすかったです。やはり知識と勤だけでは今後はやっていけないと思っていたので、根拠がある農法は重要だと感じました。BLOF理論をはじめ、化学をしっかりと勉強していきたいと思っています。



特別講義 11(河野 康子 先生)

消費者が生産者にどのようなことを求めているかがわかって良かったです。特に印象に残ったのが、生産現場に非常に関心を寄せているということ。農業をしていく中で安全性を最優先し、消費者の利益を考えた生産を行っていききたいと思います。将来は、信頼関係を築くために消費者と少しでも距離を縮めていきたいです。



特別講義 17(出口 治明 先生)

「世界をタテ・ヨコの視点でしっかりと見て考える」「数字をベースにしないロジックは意味がない」この考えは、これから事業を立ち上げる私たちにはとても大切だと思います。また、ティッシュを配っている人にも名刺を渡すというお話が印象的でした。野菜を売るのも、それぐらいの意気込みでやらなくてはと思いました。



特別講義 22(藤岡 茂憲 先生)

会社を経営する上で必要なことがわかり、とても参考になりました。特に「社員の良い所を見つけて適材適所に配置する」というお話に共感しました。また印象的だったのが、「自社の商品を、その金額でも欲しいと言う人に売れ」という言葉。藤岡さんの会社の商品は、社員の皆さんが魂をこめて育てた自信作なのだと思います。



特別講義 27(連 勇太郎 先生)

建築という異分野のお話でしたが、20世紀のやり方をどう越えるかという点が参考になりました。農業も古い体質なので、仕組みから作り直して新たに築き上げていきたいです。また、人は空間によりパフォーマンスが限定されるというお話も興味深かったです。農業を行う上でも空間は重要だと思うので、居心地の良い空間を作っていきたいです。



特別講義 28(八嶋 実 先生・大垣 友紀恵 先生)

今まで触れたことのない、デザインの世界を知ることができて楽しかったです。デザインのポイントに関するお話が面白く、デザイナーの頭の中を覗いたような気分になりました。広告はデザインひとつでイメージが大きく変わることで、またどれだけ自分の想いを並べても、相手に伝わらなければ意味がないことがわかりました。

ゼミ活動・専任講師紹介

学びのひと

つの柱、ゼミ活動。2年かけて、じっくり経営計画を練り上げていきます。

ゼミ活動 11単位

本校のゼミ活動について

学生全員が入学してすぐに、4つあるゼミのいずれかに所属します。
文献の輪読、ディスカッション、各地での視察など少人数ならではの深い学びを通じて、
それぞれの就農に向けてのビジョンを固めていきます。卒業時に提出する経営計画も、ゼミの中で練り上げていきます。

松尾ゼミ

経営戦略を実践していくため、
未来に必要なことを学ぶ。



経営戦略を実践していくための思考法や技法を獲得することを目指し、自律的な学びの支援、学びのコミュニティ形成を意識しています。具体的には、ロジカル・シンキングやアイデア発想の技法等をベースに、マーケティング戦略の構築に取り組んでいます。また、異分野・異業種からの学びの機会こそ最も重要だと考えていますので、農業やビジネス分野だけにとどまらず、アートやテクノロジー、思想といったさまざまな領域に関する活動を、企業やミュージアムの訪問、輪読を通じて学んでいきます。

ゼミの中心的な活動として、学生のゼミでの成果をアウトプットする場を設けています。前期・後期それぞれ1回ずつ、外部のゲストに来てもらい、成果物と発表への評価をもらっています。ゲストからのフィードバックをもとに、内容をブラッシュアップしていきます。

こうしたゼミ活動を支えるのは、「半学半教」という考え方です。教える者と学ぶ者の分を定めず、相互に教え合い学ぶ合うしくみのことです。学生の皆さんとは、「一緒に学ぶ」、「お互いに学び合える」関係を目指し、未来を創造する「知と方法」を構築していきたいと考えています。

小野ゼミ

農産物の流通や消費、食生活
について力を入れて学ぶ。



小野ゼミでは、農産物の流通や消費、食生活について学ぶことに力を入れています。農業経営をおこなう上で、もっとも大事なものは農産物の生産です。しかし、作ったものから対価を得て経営を続けていくには、生産物が消費者や実需者のもとへ届き、「欲しい」「食べたい」「使いたい」と思ってもらうことが必要です。そのためには、自分が作ろうとしている農産物をどんな人が買っているか、どんなふうに調理され、食べられているかを知らなければなりません。

本ゼミでは毎年、子育て中の女性を対象とした食生活についてのインタビューをおこなっています。「お米の銘柄にはあまりこだわらない」「週末の食事は夫が担当」…。自分が立てた仮説とは異なる食生活の実態に触れることで、新しい視点を獲得し、事業のアイデアが膨らみます。

こうした消費者調査のほか、文献輪読や流通・消費の現場視察を通じて、農産物がどのように流通し、消費されているのか、その仕組みや実態について学び、それぞれの経営計画に活かします。卒業研究はもちろん、視察・調査の報告書やゼミだよりの発行を通じて、情報を整理する力、言葉で人に伝える力も養っていきます。

小口ゼミ

フィールドワークを中心に、
地域づくりの現場から学ぶ。



フィールドワークを中心に進め、それを補完するものとして文献輪読や映画鑑賞も行います。言うなれば“現場”と“理論”の往復作業です。

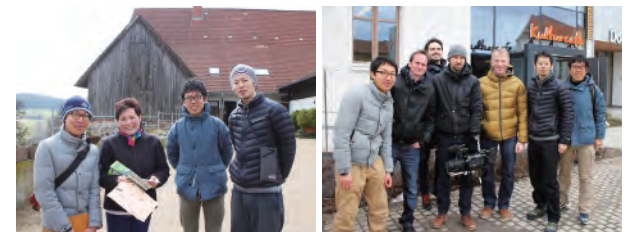
主なフィールドワーク先は、滋賀県東近江市、高知県四万十町、宮城県大崎市、鳥取県智頭町、長野県東御市、愛知県名古屋市などです。東京都日野市、多摩市、国立市など都市農業の現場は日帰りで訪ねています。そのほかにも、三重県津市では育土、栃木県上三川町では有機稲作の研修も実施しました。その目的は、「地域で楽しく、しなやかに生きる人々の声に耳を傾けること」です。私たちはそこから何を得ることができるでしょうか。

①生きた知恵と工夫に触れ、卒業後の農業経営を考えるために必要な引き出しの数を増やすこと。
②卒業後も頼りにできるつながりを創ること。
③キーパーソンの語りから自分の考えや実践を表現するためのコトバを獲得すること。

「引き出し」「つながり」「コトバ」は、多ければ多いほど私たちの人生を豊かにしてくれます。これこそ、“オリジナリティ”が生まれる源泉です。この2年間、多様かつ刺激的な情報に触れながら、現場に出かけましょう。

原田ゼミ

資本主義経済と
再生可能エネルギーの視点から、
農村のあり方を考える。



本ゼミでの学びは、幅広い教養の獲得、物事を深掘りして本質を捉える力を磨くことに主眼をおいています。

具体的には、文献輪読を通して資本主義経済や市場に対する理解を深めます。自分の経営をどう構想するのかを考えるには、時代を捉える力が必要です。市場を中心とした経済の動きを読む力といってもいいでしょう。なぜなら生産から消費に至る過程は市場を通して行われるからです。資本主義経済や市場に対する理解は経営を考える上で重要な知識であり、経営者としての資産です。同時に近年多様化する資金調達についても学びます。また、農村地域における再生可能エネルギーの取り組みを視察します。農村地域はエネルギー資源の宝庫です。資源を生かし地域が自前でエネルギーを作り出せば、体力のある地域となります。そして市場を中心とした現在の経済が変化する可能性や環境問題解決の糸口となり得ます。

資本主義経済、市場への理解と農村地域における再生可能エネルギーについて学ぶことで、今後の農村のあり方をじっくりと考えます。そして、地域を背負う農業経営者を目指す学生には、日本の農業の将来やあり方にも想いを馳せて欲しいです。



専任講師 経営力担当

松尾 和典 まつお かずのり

《経歴》
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了。慶應義塾大学SFC研究所 上席所員(訪問)を経て、コンサルティング・ファームに参画。消費財から公共領域に至るまで、多数の業界における成長戦略や新規事業戦略の策定に携わり、現在に至る。



専任講師 経営力・人間力担当

小野 史 おの ふみ

《経歴》
東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程単位取得退学。(独)農研機構 中央農業総合研究センターにおいて、契約研究員として食料消費分野の研究に従事したのち、本校の専任講師となる。東京生まれ、宮城県育ち。



専任講師 農業力・人間力担当

小口 広太 おぐち こうた

《経歴》
長野県出身。明治大学大学院農学研究科博士課程単位取得退学。明治学院大学国際学部卒業後、2007年3月から1年間、埼玉県小川町で有機農業の住み込み研修を実施。専門は地域社会学、有機農業研究。



専任講師 社会力・人間力担当

原田 雄太郎 はらだ ゆうたろう

《経歴》
東京農業大学大学院生物産業学研究科博士課程修了(経営学)。修士課程修了後に産業廃棄物業界やラフティング(川下り)のガイドを経験した後、ガイドを続けながら博士課程へ戻る。専門はガイド経験を活かして環境問題、政治経済学。

農業実習・企業実習

実際に経験することで、ひと回り大きな自分に。



農業実習

14単位

- ① 4ヵ月間1年次に実施。
- ② 先進的な農業経営体にて実施。
- ③ 実習先では農業実習に加えて、経営者に同行したり、幹部ミーティング等への出席を通じ、経営者の仕事ぶりを学ぶとともに、当該経営体や地域のコア・コンピタンスを分析。
- ④ 行き先は学生側の希望を基に、個別に調整。

顧客とコミュニケーションをとる大切さと、その方法を学びました。

〈第3期生〉石川 法泰
愛知県出身



☑実習目的

栽培、販売、顧客とのコミュニケーション方法、IT活用方法を学ぶために農業実習に臨みました。

☑実習先及び内容

法人経営（野菜）〔茨城県〕

実習先は年間50種類以上の野菜を有機栽培し、個人顧客及びレストランへ直接販売しています。その中で、私は夏野菜の管理・収穫作業及び秋野菜の定植・管理・収穫作業、冬野菜の定植・管理作業を担当。また、毎週行われるミーティングに出席し、農園の経営について学びました。

実習で得た成果

実習を通じて学んだことは主に4つあります。1つ目は、栽培に関する段取り力。各週のスケジュールは社内でも共有され、その日の作業の予習が出来るようになっています。予習をしておくことで、作業スピードが格段に上がりました。2つ目は、B to C販売の出荷作業の煩雑さ。ITを利用することでかなり効率化されていましたが、野菜の調整作業・箱詰めにはどうしても人員が必要であり、自身の経営を考える上で参考になりました。3つ目は、顧客とのコミュニケーションの大切さ。実際に畑に顧客を呼んで、生産現場を見てもらうことで、普段購入している商品の理解につなげるとともに、顧客の声を直接聞いていました。4つ目は、事務作業の効率化。B to Cを手がけているため、出荷伝票の用意、請求・入金管理など事務作業が煩雑になりますが、クラウドサービスを利用することで、なるべく省力できるように工夫していました。

農業実習を終えて

私は卒業後、消費地と生産地に近い農業をしたいと考えています。そのため、この農園で得た学びの中で、特に顧客とのコミュニケーションの方法を活かしていきたいです。顧客を畑に招き、生産現場を知ってもらうことで、農と食の距離を少しでも縮められればと思います。

就農後に何でも相談できる力強い味方ができました。

〈第3期生〉中村 美紗
福岡県出身



☑実習目的

栽培技術向上、収穫物をどこにどのように販売するか、販売先の確保はどうしているかなど、Uターン就農して数年目の農家さんの現状を知り、今後の参考にしたいと思いました。

☑実習先及び内容

家族経営（果樹）〔京都府〕

栽培技術の習得、収穫や出荷調整作業、直売所売り子、納品に加えて、畑や作業所以外では、日々の事務作業、商談会への同行、海外輸出の書類作成方法を学びました。また、地域の若手農業者セミナーへの参加、交流を通して、同年代の農業者たちの現状を知ることでもできました。

実習で得た成果

就農後に迷った時や何かあった時、すぐに相談できる力強い味方ができました。取引先との会議や商談にも同席させていただき、なかなか聞けない現場も体感できました。実習終了後も各地での商談会や展示会への同行など、実践で学べる機会を与えていただき、様々なケースを見ることで、実際にどう言えばいいのか？どうアプローチすれば相手は納得してくれるのか？など考えることができました。また、就農して数年の若手農業者と頻繁に会う機会をいただき、今困っていることや役に立っていることを聞く中で、就農時のヒントや、生産者グループを組んで取り組むことの利点も知ることができました。さらに、実習先と自家の栽培品目が同じで、地域ごとの違いや、各地で様々な工夫をしていることが分かり、自家にも活かせるものは何かと考えることができました。

農業実習を終えて

私も実習先の農園さんと同様に、自社で販路を開拓して直接取引をしたいので、早い段階から商談会に出向き、取引先の確保に力を入れたいと思います。また、本校は福岡近辺の出身者も多いので、卒業後は卒業生を中心にやる気のある若手生産者グループを作り、一緒に活動したいと考えています。

企業実習

10単位

- ① 3ヵ月間2年次に実施。
- ② 農業以外の企業にて実施。（例）食品メーカーの加工現場での実習、食品スーパーでの店頭販売の実習等。
- ③ 講義で学ぶ経営やマーケティング等を企業の現場実習を通じて学ぶことを目的とする。企業での実習を通じて農業の新たな価値・可能性と課題を発見し、卒業後の農業経営に向けて、自らのあり方を見極める。
- ④ 行き先は学生側の希望を基に、AFJの会員企業や地元企業などで個別に調整。

時間の使い方など、農業と企業との違いが勉強になりました。

〈第2期生〉河合 脩平
愛知県出身



☑実習目的

農業とは違う分野の企業を経験することです。その中で感じたビジネスモデルやオペレーションの違いから、学ぶべきものを吸収することに努めました。

☑実習先及び内容

Webサービス業（オリジナルアパレル制作・販売）〔東京都〕
広告代理店〔東京都〕

前者ではエクセルによる市場調査や顧客情報の整理、分析。また、それを伝えるためにどう見せるべきかを考えることでした。後者は様々な広告コピーやネーミングを考えることです。考えるにあたって時代背景を調べたり、商品情報を集めることも必要でした。

実習で得た成果

時間の使い方を学んだことが大きいと思います。農産物の成長に合わせて作業をする農業とは違い、一般的に企業は決まった時間に仕事をします。しかし、それは当然、時間分だけ仕事をしていれば良いというわけではなく、時間に見合った仕事量が求められています。最近では企業のように作業時間を決めている農業法人も多くありますが、重要なのは社員の働きやすい環境を整えることだと感じました。特に自分が実習で行ったITベンチャーさんで面白く感じたのは、午前中に入社してくる社員さんが半分ほどしかないことです。遅く来た人は代わりに終電近くまで仕事をしていくというスタイルをとっていました。これによって作業効率が驚くほど違うそうです。IT系の仕事時間を農業に直接あてはめることはもちろん難しいですが、こういった他業種の考え方を参考にできるということは、企業実習の大きな魅力の一つだと思いました。

企業実習を終えて

これから経営者として農業をしていく中で、既存の農業観というものに縛られていては難しい状況です。今回、東京という情報が集まる場所で、農業とは違う企業実習で学んだことを参考にして、新たな農業経営を築上げていきたいと考えています。

都市農村交流における新たな農業の価値を学びました。

〈第2期生〉上窪 華
鹿児島県出身



☑実習目的

農業ボランティアの企画から実施までの流れを知ること、そして実際に農村現場での消費者との交流においてニーズを把握することを目的に臨みました。

☑実習先及び内容

旅行代理店〔東京都〕

地域振興推進部にて、農業ボランティア「快汗！猫の手援農隊」の企画の仕事をさせていただきました。主にチラシや資料の作成とアンケート集計をし、実際に援農隊として企画に参加。また教育旅行等の自然・農林体験活動における研修会など、様々な研修会にも参加しました。

実習で得た成果

「快汗！猫の手援農隊」は、過疎化や高齢化により担い手不足が深刻な農山漁村を応援するために、作業支援を行う都市住民のボランティアを募り、交流を通じて互いの理解を深めることを目的としています。実際に農業ボランティアの企画に参加し交流することで、日本の農業の役に立ちたい、本物の農を理解したい、自然の中で汗を流しストレスを発散したいなど、都市住民の様々なニーズを知ることができました。最初はお金を払ってなぜ農業ボランティアをしたいのかと疑問を持っていましたが、都市住民が農業農村に感じる価値を知ることができて良かったです。また、福島ツアーの企画を担当し、福島県で就農した1期生に助けをいただきながら旅行行程を考えたり、予算に合わせて宿泊場所や食事場所を探したりと、勉強になりました。卒業生と企業実習で関わりが持てたことは非常に嬉しく、とてもやりがいのある内容でした。

企業実習を終えて

私は地元鹿児島県湧水町で就農し、地域を活性化させたいと考えています。人口減少に悩む地域としても、交流人口を増やすことに力を入れています。今回は都市住民の農業農村に対するニーズを把握できたので、都市住民を地域に呼び込むなど、都市農村交流に力を入れ、地域の交流人口増加に寄与したいです。

本校ならではの学びと学生生活

本校の学びの特色や、学生の過ごし方をご紹介します。



伝える力を身に付ける

発表を重ねることで思考を深め、考えを伝える能力を磨く。

大学時代は、人前でスライドを使って発表する機会はほとんどありませんでした。でも日本農業経営大学校は、実習の決意表明や報告、卒業研究の中間報告会や最終報告会、会員企業交流会など、発表の機会がとにかく豊富。おかげでパワーポイントの使い方もプレゼンの仕方自然と身に付き、上達することができました。

発表の機会が多いことのメリットは2つあります。1つめは、アウトプットをすることで、自分が何を言い、何を学んだかを思い出せること。そして2つめは、人前で発表することで、自分の思いがどうすれば人に伝わるかを考えられることです。たとえば、発表内容にロジックやストーリーはあるか。それを意識して内容を組み立てると、話にきちんと筋が通って伝わりやすくなります。また、発表全体はもちろんスライド1枚ごとに、

目的は何かということもじっくりと考えました。新規事業を起こし、その事業について誰かに伝えるイメージで考えると、目的が明確になる気がします。そして最後にもうひとつこだわったのは、発表内容に自分自身が納得できるかどうか。自分が納得できなければやはり他者にも伝わらないので、そこは厳しい目でチェックすることが大切です。

数ある発表の中でも特に印象に残っているのは、企業実習。実習先は農業のコンサルティングを行う企業でしたが、コンサルタントは自分の考えを顧客にプレゼンし、いかに良いと思わせるかが勝負なので、ここで私は大いに鍛えられました。このとき得た経験とスキルは、今後の自分にとって大きな財産になると思います。



〈第2期生〉
井上 隆太郎
長野県出身



学生の1日



〈第3期生〉
星 裕之
東京都出身

Weekday

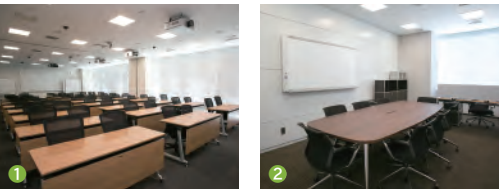
起床は毎朝5時。6時15分から皆で寮の掃除をします。授業後は自転車で帰寮し、夕食前に10kmほどランニング。先日は友だちとハーフマラソンに参加して完走しました!夕食後は勉強したり、時々みんなでお酒を飲んだり。だいたい22時～23時には就寝します。

Holiday

土日は学校の課題や資格の勉強。農業簿記2級、農業技術検定3級、ジュニア野菜ソムリエ、土壤医検定などすべて入学後に勉強を始めました。また、農業関係のセミナーや勉強会に参加することも。活動にかかるお金は、社会人時代の貯金を使っています。

1週間の授業スケジュール ※1年生・2015年6月の例

	1時限目 9:00-10:15	2時限目 10:30-11:45	3時限目 13:00-14:15	4時限目 14:30-15:45	5時限目 16:00-17:15	6時限目 17:30-18:45
月	農業・食の経営戦略		特別講義			
火	消費者の心理と行動		経営者のための社会学			
水	総合的学習			経営者のための社会学		
木	学年別ゼミ		経営者のための経済学	文化的活動華道		
金	特別講義		AFJ事業概要	農業経営と情報マネジメント		



校舎紹介(農林中央金庫品川研修センター5階)

校舎は2014年2月に完成。品川駅から徒歩12分で、都内の移動も便利です。

① 教室

明るく落ち着いた雰囲気、最新式の設備機器を導入。1学年20名が勉強に打ち込めます。2教室をつなげると、全学生と一緒に学べる大教室に。

② ゼミ室

ゼミや卒業研究を行う専用の部屋。学生の疑問や生活面の不安に対しても、担当教員がサポートします。

③ 図書スペース

調べ物に大活躍。経営や農業に関する3千冊以上の本が所蔵されています。

④ ラウンジスペース

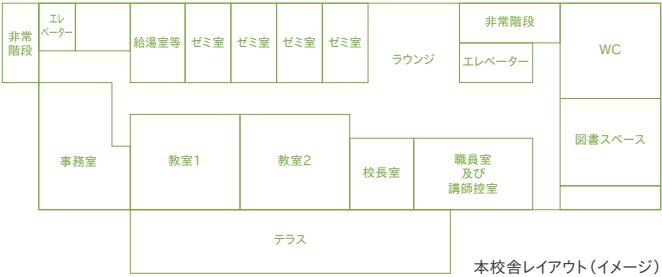
学生たちが自由に使えるスペース。休み時間や昼食時に休憩もできます。また、学生共用のパソコンやコピー機、学生一人ひとりに専用のロッカーも用意。ロッカーの中には、ノートパソコンや携帯電話を充電できるコンセントも付いています。

⑤ テラス

オープンエアでゆっくりと休憩できます。眺めも抜群で、晴れた日の気持ちよさは格別です。

無線LAN環境

本校専用の無線LANを完備。個人のノートパソコン等からインターネットに接続できます。



本校舎レイアウト(イメージ)

校内で一番落ち着く場所は図書スペース。集中できるので、課題をやったり、参考書を読んだりして過ごします。時には職員の方とおしゃべりを楽しむこともあります。学生同士で話し合いをする時はラウンジを利用。最近は春休みに行くドイツ視察に向けて相談中です。昼食は、教室やゼミ室で食べることが多いです。おかずの種類が豊富で、学校に配達してくれるお弁当もあって便利です!

〈第3期生〉島田 大輔
埼玉県出身



卒業生・進路紹介

卒業生たちがつながり、切磋琢磨

磨しながら、日本中に新しい農業を生み出していく。



〈第1期生〉
中瀬 健二
熊本県菊池郡大津町で就農

入学動機

大学進学時から実家の農業を継ぐと決めていましたが、卒業して即就農だと父親の農業を受け継ぐだけになってしまったと思いました。自分が目指す農業をやるには、ブランディングの知識や販売力を含めた経営力が足りないと感じていた時に、父親から日本農業経営大学校を紹介され、ここなら集中的に学べると思いました。

本校で得た学びをどう生かしているか

企業実習先との直接取引が始まっています。今は商品を直接卸したり、イベントへの参加や地元の生産者の紹介などが中心ですが、法人化に関する相談や、貯蔵庫の規模拡大に対するコンサルティングの相談も行っており、今後さらなる広がりが予想されます。

卒業後1年間の取り組み

これまではホクホクした食感のサツマイモを作っていましたが、焼き芋ブームに乗り、昨年は6割、今年は9割をしっとり系品種の「紅はるか」に変更しました。また、3年前から構想と試作を重ねてきた干し芋の商品化について、加工と検査を外注する形で、今年度からの本格販売を検討中です。まずは道の駅でのお土産や贈答用として販売を開始。そして台湾でのテストマーケティングで需要があるとわかったので、海外への販路拡大も視野に入れています。さらに知り合いのIT企業が展開するソーシャルゲームの景品として、サツマイモの提供を始めました。新しい販路であるとともに、全国の幅広い層に向けたPR効果も期待できると思っています。また、卒業研究を行う中で、出荷時のサイズや形に関する規格が多すぎることに気づきました。そこで企業実習中にバイヤーさんへのヒアリングやテストマーケティングを行い、規格を見直し。現在は規格数を3分の1程度に減らし、コストも削減できました。

卒業後1年間の感想

1年目に技術面を習得したいと考えていましたが、実際は覚えることが多くて学びきれませんでした。先輩経営者かつ実践農業者である父親の頭の中にあるコツやノウハウも含めて、マニュアル化の必要性を感じています。また、新商品を作る計画もありましたが、加工などの6次産業化に関する作業を農作業終了後に始めなくてはならないことや、苦労と売り上げのバランスを考えると、計画し直す必要があると痛感しました。今後は自分ですべてを行うのではなく、実現可能なやり方を探していきたいと思います。

卒業生同士のつながり

卒業後も、会員企業交流会やゼミの現役学生の研究発表時に集まり、就農後の経過報告や情報交換を行っています。壁にぶつかった時の失敗談や解決策を聞くと、みんなの頑張りや成長が見えてきて、自分も負けていられない!という気になります。また、自分たちが作った物の物々交換も、モチベーションアップにつながっています。

今後の夢や目標

まずは栽培面のマニュアル化です。感覚的な部分を明文化し、工程が見える形にすることで、誰でもできる栽培を目指します。栽培管理面では、グローバルGAPの導入も検討しています。

また、経営面では利益率の向上を図りたいです。原価の低減はある程度できているので、次は販売単価の向上が目標。消費者に手間をかけさせずに美味しさを届けるという発想で、新しいプロダクトを開発したいです。さらには海外進出と、5年以内に売り上げ1億円を目指します。そしてゆくゆくは地元で一番、最終的には九州で一番大きな経営体になりたいです。



卒業後まずは、少量多品目の露地野菜20aと稲作を1.2haしました。野菜やお米は、個人宅や個人の飲食店へ個別宅配をしました。2年目に入り、露地野菜を40a、稲作を2.2haに規模拡大し、放し飼い養鶏(20羽)も始めています。また、お嫁さん探しは継続中です。農地は、ほぼ全て利用権を設定して借りています。現状の一番の課題は、農業倉庫を建てる資金が足りないこと。将来の目標は、3年目に黒字化し、その後、研修生や雇用の受け皿となって新規就農者を増やす役割を担いたいです。そして6年目をめどに法人化し、この四季豊かな日本の風土を守る人になりたいです。



〈第1期生〉
荒木 健太郎
兵庫県たつの市で就農

非農家出身 → 独立就農

卒業後、震災復興のためのトレーニングプログラムに参加し、宮城・岩手・福島 の3県の農業者と農業の課題を掘り下げて解決策を探りました。その中で宮城の農業者10団体と、地元のスーパーマーケットチェーンでの軽トラ市や、青果バイヤー、飲食店経営者、JA理事、生産者でのトークセッションを企画・運営。量販店のニーズを探り、今後の販売について模索しました。今後は軽トラ市を年4回のペースで行い、宮城県での生産→流通の仕組みを構築したいです。生産面では、被災した土地の地力が弱いため、どのように肥料設計していくか普及員にアドバイスをもらいながら進めていきます。



〈第1期生〉
相原 美穂
宮城県仙台市で就農

農家出身 → 親元での独立就農

高知県で農家民宿と有畜複合農業を営む農業経営体に就農し、夏秋野菜の栽培、繁殖牛の飼育、農家民宿の運営について学び、実践しています。他にも狩猟や大工仕事、地域の集落活動、地元NPO法人の大豊町を盛り上げる活動にも参加。農業関係以外も幅広く活動することで、地域にもだいた馴染めています。農地は、独立時に現在の就職先から25aを譲り受けることとなっています。現状では経営継承も視野に、栽培の担当を受け持ち、顧客管理や経理、情報発信など経営に必要なことを実践させていただいています。それぞれの課題を見つけ、解決しながら取り組んでいます。



〈第1期生〉
中平 拓海
高知県大豊町で就農

非農家出身 → 雇用就農

現在は、栃木県宇都宮市の農業法人でイチゴ生産に携わっています。将来は長野県の実家に戻り、既存の経営にイチゴをプラスし、従来の課題であった冬季の雇用対策を図ります。イチゴ栽培を開始するにあたっての初期投資は、補助金を使いながらというイメージですが、まだまだ構想の段階です。ゆくゆくは実家で取り組んでいる作物と、自分が導入するイチゴが同じブランドとして生活者に認知され、唯一無二の存在になれたらいいと考えています。



〈第1期生〉
大月 駿
栃木県宇都宮市で就農

農家出身 → 雇用就農

想定される主なキャリアパス

農家出身者	自家農業を引き継ぐ	
	自家農業を共同経営する	
	親から独立して別の経営を開始する	
	農業法人に就職、修行後に自家農業を引き継ぐ又は独立する	
非農家出身者	独自に農地を確保して独立する	
	農業法人に就職	一定期間の修行後に独立する
		就職先の経営層を目指す

●就農先について

本校では学生自身がやりたい農業を見つけ、自発的に就農先を考えて行動するように指導・サポートしています。

卒業後の就農状況と就農地

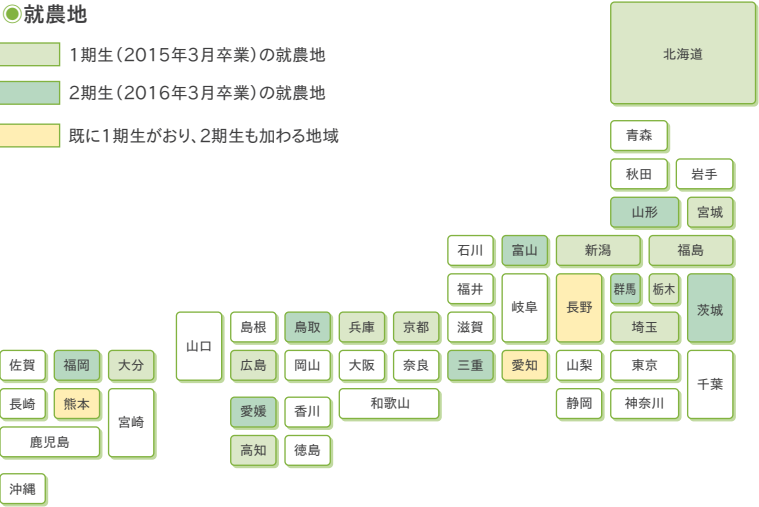
●就農状況

就農先	卒業生合計(32名)	うち農家子弟(21名)	うち非農家(11名)
親元就農	15名	14名	1名
法人雇用	12名	6名	6名
独立就農	3名	0名	3名
継続研修 (フランス、オランダ)	2名	1名	1名

注:親元には祖父母を含む

●就農地

- 1期生(2015年3月卒業)の就農地
- 2期生(2016年3月卒業)の就農地
- 既に1期生があり、2期生も加わる地域



北海道	1名(野菜)	愛知県	2名(水稻・野菜・花卉)
宮城県	1名(水稻・野菜)	三重県	1名(野菜)*
山形県	1名(野菜)	京都府	1名(野菜)
福島県	1名(コットン)	兵庫県	2名(水稻・野菜・畜産等)
新潟県	2名(水稻・野菜)	鳥取県	1名(飼料用米)
栃木県	1名(野菜・果樹)	広島県	1名(野菜・苗)
群馬県	1名(野菜)	愛媛県	1名(果樹)
茨城県	2名(野菜)	高知県	1名(野菜・畜産等)
埼玉県	2名(野菜)	大分県	1名(果樹・きのこ)
長野県	3名(野菜・果樹等)*	福岡県	1名(水稻・野菜)
富山県	1名(水稻・野菜)	熊本県	4名(野菜・水稻・養蜂)

※海外での継続研修者が帰国後に就農する地域

寮について

キレイで、快適で、楽しい。毎日安心して過ごせる、第2 のわが家です。

全寮制の本校では、2年間、学生みんなで寮生活をします。
真剣に議論したり、夢を語り合ったり。ここでしかできない経験と、家族のような仲間が待っています。

ようこそ！
日本農業経営大学校学生寮へ



所在地	川崎市中原区 最寄り駅 武蔵中原駅
通学時間	約50分
居室設備	机、椅子、本棚、ベッド、収納スペース、エアコン、カーテン、電気スタンド、ゴミ箱、ベランダ(物干し台)
共用施設	食堂、風呂、トイレ、談話室、調理設備
共用設備	洗濯機、衣類乾燥機、下駄箱、郵便受

夕食後にみんなでテレビを観たり、日々の何気ないことや学校のことを話す時間が好きです。食事もすごく美味しくて、朝晩食べられるので、便利で経済的。面倒見の良い寮母さんが作る手ごねハンバーグは絶品です！

〈第3期生〉
鳥海 みな子
神奈川県出身

談話室



男女共用と女子専用の談話室があります。調理設備と冷蔵庫を完備。休日は料理なども楽しむことができます。



食事



朝食と夕食を提供し、食事面をサポート。栄養バランスに配慮した国産の食材を使用しています。

寮に食材を納入する卒業生を紹介！



〈第1期生〉野上 真
新潟県南魚沼市で就農

「少量でも確実な売り先」これを確保することは、ゼロから生産することへの安心感につながります。そこで学生寮への納入を決めました。
また、自分が作ったものを食べてもらうことで、在校生とのつながりを深めることもできますし、卒業生の本気度みたいなものを感じ取ってもらえたら嬉しいです。
今後は学生寮だけでなく、外部にも販路を広げていきたいと考えています。
全国にいる卒業生の生産者団体がまとまれば、大きな販売力になるはず。
まだ団体は一期目ですが、卒業生も年々増えますので、続けていくことを目標に頑張ります。

風呂



一日の疲れを癒す広々とした大きなお風呂は、学生にも人気。思いっきり足を伸ばせます。

洗濯機 洗面所



洗濯機と洗面所を各階に完備。衣類乾燥機もついていて便利です。

サポート



管理者が24時間常駐しているので安心。生活の様々な面で献身的にサポートをしてくれます。

楽しいサークル活動もあります！
(学生の自主企画)

今年度予定しているサークル活動

- マルシェサークル
マルシェイベントでの農産物販売
 - スポーツサークル
日々のマラソンやフットサルを実施
 - プランターサークル
屋上でプランター栽培。作目は参加者の希望で決定
- 地域貢献活動**
秋の落ち葉の季節に町内会の清掃に参加

個室



個室には机やベッド、エアコン、収納が完備され、学習環境をサポートしています。

食堂



食堂は学生全員の共用スペースです。
夜遅くまで談義が続き、コミュニケーションの場となっています。

各種支援について

入学前、在学中、卒業後、農業

経営者としての力をさらに高める支援を行います。



入学前・在学中の支援

放送大学受講の支援

本校入学前及び在学中に、放送大学を受講する場合の授業料等について支援を行っています。

経緯とねらい

本校は社会人経験者、農業法人・自家等での農業従事者、大学生、県農業大学校生、高校生など、年齢も経歴も様々な青年が受験します。このうち高校生については入学前の農業研修期間中に放送大学の一部科目の受講を推奨して、「知識・教養」の積み上げを図ることとしました。これは、

- 1 本校では開講していない一般教養科目を学ぶ
- 2 1年間の農業研修期間中も継続して勉強する習慣を身に付ける
- 3 本校で学ぶ高卒者にも学位が取得できるきっかけを与える
(放送大学に在学する中で必要な単位を取得すれば、学位を取得できます)

ことなどをねらいとして推奨するものです。

放送大学の受講

本校が推奨する5科目を登録して放送大学に入学し、インターネット環境があるところで、夜間、週2日、1時間程度の学習を想定しています(インターネット環境があれば、いつでも何度でも視聴できます)。
(参考)平成28年度の推奨科目 「哲学への誘い」、「はじめての気象学」、「日本の近現代」、「社会学入門」、「事例から学ぶ日本国憲法」

経費の支援

選科履修生入学金(9,000円)と授業料(1科目当たり11,000円)は、単位取得又は単位認定試験の受験要件を満たしている等判断できれば、本校入学後に上記費用を支給します。

その他

高校生の入学前の放送大学受講は、あくまでも推奨です。
本校在学中に放送大学受講を希望する学生については、同様の支援を行います。



卒業後の支援

卒業後の海外農業研修支援

本校卒業後に、公益財団法人国際農業者交流協会(国農協)の海外農業研修制度を利用して、海外での農業研修を希望する学生に対する支援を行っています。

支援の概要

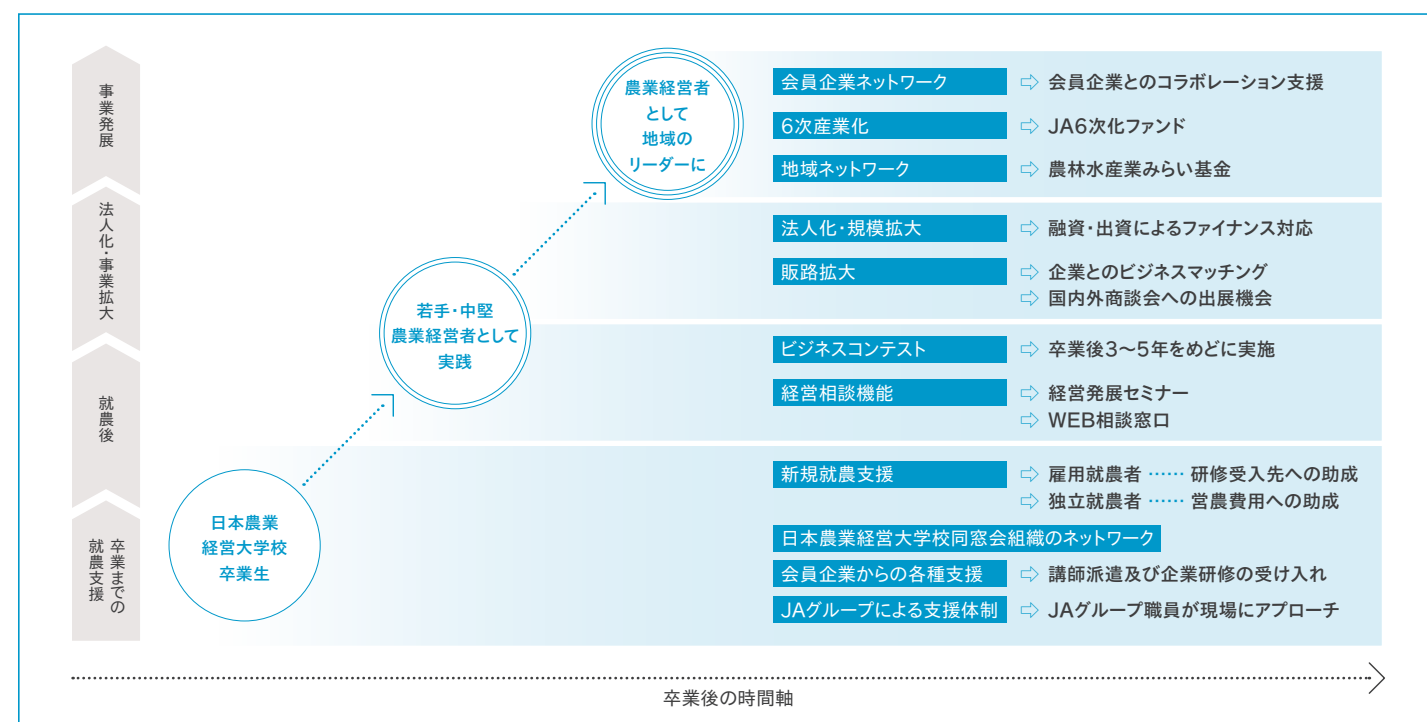
- 1 国農協による海外農業研修への参加を希望する学生を2名まで校長名で推薦
推薦応募のメリット: 選考費の減免、筆記試験の免除
- 2 推薦者に対する研修準備特別プログラムの実施
プログラム内容: 語学プログラムの設定・提供 / 語学研修経費の補助 / 研修希望国の農業事情についてのレポート作成指導 / 語学検定受験料補助
- 3 推薦者に対するTOEFLiBTスコアに応じた研修費の助成
スコアと助成内容: TOEFLiBTスコアに応じて研修費の助成を行います。助成の内容はスコア別に数段階に分かれ、最大で全額の助成を行います。

公益財団法人国際農業者交流協会の海外農業研修制度とは

農業技術・知識の習得、国際感覚・コミュニケーション能力の獲得による優れた農業経営者の育成を目的として、海外の優れた農業経営者のもとで研修を行う制度。研修先はアメリカ(19か月)、ヨーロッパ(デンマーク、ドイツ、スイス、オランダ:13か月)の農場。実習中は農場から実習手当が支給されるが、参加申込金30万円、国により研修費69万円から134万円程度が必要となる。年齢制限あり。参加年、研修先国によって内容が異なるため、詳細は学校あるいは国際農業者交流協会にお問い合わせください。

ステージに応じた各種支援

卒業生の経営発展をサポートすべく、会員企業と連携したうえで、様々な支援策を検討しています。
会員企業との連携施策として、例えば、農林中央金庫とともに卒業生の成長ステージに合わせた、各段階ごとの支援策を検討しています。



募集・受験について

平成29年4月に入学する

20名と平成30年4月に入学する5名の学生を同時に募集します。



一般入試

募集対象者	本校卒業後、独立就農、自家を含めた農業経営体に就農又は雇用就農し、農業に従事することが確実と見込まれる者で、未来を切り拓く農業経営を志す者
受験資格	●【29年度入学生】高等学校を卒業した者又はこれに準ずると認められる者 ●【30年度入学生】高等学校を卒業した者、平成29年3月卒業見込みの者又はこれに準ずると認められる者 ●入学する年の4月1日時点で19歳以上40歳以下の者 ●入学までには一定の農業従事・農業研修経験が必要（受験時に満たしている必要はありません） ※自家が農業を営む者は原則3か月以上、それ以外の者は原則6か月以上 ※高等学校卒業見込み者は、上記にかかわらず1年程度 ※道府県農業大学校等の卒業者又は卒業見込み者は、農業研修経験を満たしています。 ※大学農学部の実習は、農業研修経験とみなし実日数で換算します。 ※農業研修は、作物の栽培、家畜の飼養等に関する内容が基本となるものの、農畜産物の加工・流通・販売等の他、農業者との交流、農業現場の実態調査、農家見学など、直接農業・農村の現場に触れる活動も含みます。
放送大学 受講	高等学校卒業見込で受験し合格した者については、本校に入学する前の段階で一般教養等の知識や教養を高めることを支援するため、本校が指定する放送大学の授業科目をできるだけ履修していただきます。放送大学の受講は本校として推奨するものですが、必須ではありません。
募集人数	平成29年度入学試験 20名（特待生入試含む） 平成30年度入学試験 5名

入学試験日程		試験会場	出願期限	入学試験	合格発表
I期日程		東京	7月7日（木）	7月24日（日）	8月1日（月）
III期日程		大阪	10月6日（木）	10月22日（土）	10月31日（月）
		福岡		10月23日（日）	
IV期日程		東京	11月10日（木）	11月27日（日）	12月5日（月）
V期日程		東京	平成29年1月26日（木）	平成29年2月11日（土）	平成29年2月20日（月）

※入学志願票は、6月1日（水）から受け付けます。 ※出願期限が必着です。

試験の種類	小論文審査（出願時の小論文を審査）、面接
受験費用	5,000円

本校2年間で必要な主な費用	
入学金	なし
授業料	60万円／年 120万円〈2年間〉
寮費（朝・夕食あり）	100万円／年 200万円〈2年間〉
実習費用	選択する実習先により変動
合計	約320万円〈2年間〉
※その他：交通費・昼食代などが発生します。	

助成金	
青年就農給付金（準備型）	150万円／年 300万円〈2年間〉
注： ①日本農業経営大学校は、全国型教育機関として認定されています。 ②給付金の給付を希望する者は、給付金の事業実施主体に研修計画を提出し、承認を得る必要があります。 ③給付金を受けた場合は、本校卒業後一定期間独立・自営就農又は雇用就農しないと給付金を返還しなければなりません。 ④青年就農給付金事業については、要綱等を十分ご確認ください。	

AO入試

募集対象者

既に自家又は農業法人の農業経営の主体を担っている者

受験資格

● 大学を卒業した者又はこれに準ずると認められる者

● 入学する年の4月1日時点で40歳以下の者

募集人数

2名（日本農業経営大学校の入学定員20名の外数として募集します）

入学年度

AO入学試験合格後、3年以内に入学することとし、入学年度は受験者が決定します。

入学試験日程

試験会場	出願期限	入学試験	合格発表
東京	11月10日（木）	11月27日（日）	12月5日（月）
東京	平成29年1月26日（木）	平成29年2月11日（土）	平成29年2月20日（月）

試験の種類

小論文審査（出願時の小論文を審査）、面接

AO入試の特例

● 自らが主体となっている農業経営から離れることを考慮し、より実践的な教育が受けられるよう、教育プログラムについては個人ごとに対応します。

● 授業料（年額60万円）は免除します。

自らの代替を確保するために経営的損失が生じること及び一般学生に対して大きな刺激を与える教育効果があることを考慮します。



特待生入試

募集対象者

農業法人代表者の子弟及び幹部候補者、認定農業者の子弟 ※子弟は、農業法人代表者又は認定農業者から二親等以内とします。

受験資格

● 高等学校を卒業した者又はこれに準ずると認められる者

● 入学する年の4月1日時点で20歳以上40歳以下の者

● 入学までに原則3か月以上の農業従事・農業研修経験が必要

募集人数

6名

入学試験日程

	試験会場	出願期限	入学試験	(試験予備日)	合格発表
Ⅱ期日程	東京	9月8日(木)	9月24日(土)	10月1日(土)	10月11日(火)

※入学志願票は先着順に受け付け、受験者多数の場合は試験予備日になる場合があります。

試験の種類

小論文審査(出願時の小論文を審査)、筆記試験(能力検査、小論文)及び面接

奨学措置

特待生については、1人当たり年間160万円(授業料、寮費相当額)の奨学金を支給

給付停止措置	● 在学中の学業成績、学生生活に問題が生じた場合 ● 在学時に青年就農給付金（準備型）を利用した場合 ● その他、本校が別に定める規程類に抵触した場合
返還措置	● 原則として2年以内に本校を卒業しなかった場合 ● 本校卒業後、3か月以内に就農しないことが確実になった場合 ● 就農後、3年間就農を継続しないことが確実になった場合 ● その他、本校が別に定める規程類に抵触した場合 ※返還措置を設けるため、入学に当たっては連帯保証人が必要
その他	特待生入学試験で不合格になった者であっても一般入学試験の合格水準に達していると認められる者については、一般入学試験の合格者として入学することが可能です。

よくある質問

〔Q1〕 日本農業経営大学校を卒業することで、何らかの学位を得ることはできますか？

〔A1〕 本校は学校法人ではないため学位は得られませんが、本校を卒業すること自体が学位以上の価値を生み出せる、そのような学校を築いていきます。

〔Q2〕 他の農業者教育機関にはない、本校の強みは何ですか？

〔A2〕 「経営力」「農業力」「社会力」および「人間力」という、農業経営者に必要な能力をバランスよく育むことができます。また、全国レベルで農業を実践する仲間を持つこと、農業界・産業界・学界・行政等に幅広いネットワークを構築できることも大きな強みであると考えています。

〔Q3〕 農業未経験者ですが、農業研修先は斡旋してくれますか？

〔A3〕 まずは、全国新規就農相談センターが行っている農業インターンシップを利用して、1～2週間の農業研修をお勧めします。その後、さらに期間を延ばして農業研修を行うとよいでしょう。本校の入学試験に合格した方については、農業研修先を紹介します。

〔Q4〕 卒業後のフォローアップ体制はどうなっていますか？

〔A4〕 卒業後もフォローアップ研修や通信講座、同窓会活動の支援等、様々な観点で農業経営の実践をサポートします。また、新規就農希望者に対しても、日本農業法人協会、全国農業会議所等、会員の幅広いネットワークを活用した就農サポートに取り組めます。

〔Q5〕 青年就農給付金（準備型）の受給にはどのような手続きが必要ですか？

〔A5〕 本校に入学してから手続きを行います。申請書を提出し、事業実施主体から書類審査と面接審査を受け、認定を得る必要があります。また、在学中も授業の出席簿や成績表を提出し、勉学状況や就農に向けた面談を受けることになります。受給できた際は、青年就農給付金は国民の税金から賄われていることを常に自覚して、勉学に励む必要があります。

〔Q6〕 特待生制度の狙いについて教えてください。

〔A6〕 特に学業・人物ともに優れている者に対し、本校入学後に他の学生の模範となり、リーダーとしての役割を担っていただくことを期待し、特待生として奨学金を給付します。募集対象者としては、農業法人代表者の子弟及び幹部候補者、認定農業者の子弟です。これは農業法人のミドルマネジメント層を含む地域農業の担い手となる層を想定しているものです。ただし、特待生となった場合でも、在学中の学業の状況等によっては、奨学金の給付を停止する場合があるほか、途中退学等の場合には、支給した奨学金の返還が必要となることがあります。なお、特待生入試で不合格になった者であっても一般入試の合格水準に達していると認められる場合は、一般入試の合格者として入学することが可能です。

たくさんの人と企業が、あなたの一步を支えます。

私たちは、一般社団法人 アグリフューチャー・ジャパンを応援しています。



〔正会員〕

アサヒグループホールディングス株式会社	味の素株式会社	イオンアグリ創造株式会社
イズミヤ株式会社	エスビー食品株式会社	株式会社 関西スーパーマーケット
キッコーマン食品株式会社	キュービー株式会社	株式会社 極洋
サッポロホールディングス株式会社	株式会社 J-オイルミルズ	昭和産業株式会社
スターゼン株式会社	宝ホールディングス株式会社	株式会社 ニチレイ
日清オイリオグループ株式会社	株式会社 日清製粉グループ本社	日本水産株式会社
日本製粉株式会社	日本ハム株式会社	日本デルモンテ株式会社
ハウス食品グループ本社株式会社	株式会社 バロー	株式会社 阪食
不二製油グループ本社株式会社	プリマハム株式会社	丸大食品株式会社
マルハニチロ株式会社	株式会社 明治	森永乳業株式会社
株式会社 ヤオコー	株式会社 ヤクルト本社	山崎製パン株式会社
雪印メグミルク株式会社	横浜冷凍株式会社	株式会社 ライフコーポレーション
公益社団法人 日本農業法人協会	農業者大学校同窓会	全国農業協同組合中央会
全国農業協同組合連合会	全国共済農業協同組合連合会	農林中央金庫
一般社団法人 全国農業会議所	公益社団法人 大日本農会	特定非営利活動法人 全国有機農業推進協議会
金子 美登	佛田 利弘	株式会社 野菜くらぶ
農事組合法人 和郷園	一般財団法人 日本GAP協会	一般社団法人 日本食農連携機構
株式会社 農林中金総合研究所		
生活クラブ事業連合生活協同組合連合会	日本生活協同組合連合会	パルシステム生活協同組合連合会
一般社団法人 日本フードサービス協会		

〔賛助会員〕

伊藤忠商事株式会社	オリックス株式会社	住友商事株式会社
三菱商事株式会社	ヤマト運輸株式会社	株式会社アサツー ディ・ケイ
株式会社 クボタ	ゴールドバック株式会社	清水建設株式会社
ダイキン工業株式会社	株式会社 電通	富士急行株式会社
ヤンマー株式会社	レンゴー株式会社	株式会社 アインファーマシース
株式会社 エヌ・ティ・ティ・データ	NTN株式会社	科研製薬株式会社
昭和電工株式会社	神栄株式会社	新日鉄興和不動産株式会社
大建工業株式会社	大成建設株式会社	大陽日酸株式会社
東京急行電鉄株式会社	トヨタホーム株式会社	日東ベスト株式会社
野村不動産株式会社	フジパンググループ本社株式会社	ブライスウォーターハウスカーパス株式会社
丸紅株式会社	三井倉庫ホールディングス株式会社	株式会社 やまびこ
日本製紙株式会社	日野自動車株式会社	出光興産株式会社
エア・ウォーター株式会社	沖電気工業株式会社	片倉工業株式会社
クミアイ化学工業株式会社	京浜急行電鉄株式会社	正栄食品工業株式会社
積水化学工業株式会社	積水ハウス株式会社	セントラル硝子株式会社
日産化学工業株式会社	日本電気株式会社	日本アイ・ビー・エム株式会社
日本製菓製糖株式会社	日本農業株式会社	はごろもフーズ株式会社
富士通株式会社	ボーソー油脂株式会社	北興化学工業株式会社
株式会社三菱総合研究所	三菱UFJリース株式会社	ミヨシ油脂株式会社
SBSホールディングス株式会社	三菱重工業株式会社	三菱電機株式会社
株式会社 アミノアップ化学	飯野海運株式会社	石原産業株式会社
塩水港精糖株式会社	株式会社 カネカ	木徳神糧株式会社
月桂冠株式会社	ケンコーマヨネーズ株式会社	サンケイ化学株式会社
JNC株式会社	シブヤ精機株式会社	株式会社 商船三井
新三商事株式会社	住友ゴム工業株式会社	住友林業株式会社
大王製紙株式会社	太子食品工業株式会社	高梨乳業株式会社
東京定温冷蔵株式会社	東京豊海冷蔵株式会社	東西産業貿易株式会社
東洋精糖株式会社	株式会社 日新	鳥越製粉株式会社
日建リース工業株式会社	株式会社 浜乙女	日本カーバイド工業株式会社
一般社団法人日本スーパーマーケット協会	株式会社 ベイシア	株式会社 ヒューテックノオリン
芙蓉総合リース株式会社	丸善食品工業株式会社	ホクサン株式会社
株式会社 マルイチ産商	明治海運株式会社	株式会社 ミキモト
宮坂香料株式会社	ラサ工業株式会社	ヤマエク野株式会社
株式会社 吉野家ホールディングス	市岡製菓株式会社	理研ビタミン株式会社
旭化成株式会社	OATアグリオ株式会社	伊藤忠アーバンコミュニティ株式会社
株式会社 ABC Cooking Studio	幸南食糧株式会社	株式会社 オレンジページ
新生紙パルプ商事株式会社	トキタ種苗株式会社	サミット株式会社
日本酒類販売株式会社	わらべや日洋株式会社	ソリマチ株式会社
		伊藤忠飼料株式会社
		株式会社 京成ストア
		ジェイカムアグリ株式会社
		TPR株式会社
		日清丸紅飼料株式会社
		三菱瓦斯化学株式会社

三井物産株式会社	三井物産株式会社
王子ホールディングス株式会社	王子ホールディングス株式会社
双日株式会社	双日株式会社
三菱地所株式会社	三菱地所株式会社
宇部興産株式会社	宇部興産株式会社
兼松株式会社	兼松株式会社
総合警備保障株式会社	総合警備保障株式会社
ダイワボウホールディングス株式会社	ダイワボウホールディングス株式会社
日本ユニシス株式会社	日本ユニシス株式会社
ホッカンホールディングス株式会社	ホッカンホールディングス株式会社
株式会社 豊田自動織機	株式会社 豊田自動織機
株式会社 インフォメーション・ディベロプメント	株式会社 インフォメーション・ディベロプメント
協友アグリ株式会社	協友アグリ株式会社
株式会社 西武ホールディングス	株式会社 西武ホールディングス
株式会社 などり	株式会社 などり
日本書連株式会社	日本書連株式会社
ヒューリック株式会社	ヒューリック株式会社
三菱総研DCS株式会社	三菱総研DCS株式会社
SBSフレック株式会社	SBSフレック株式会社
株式会社 ADEKA	株式会社 ADEKA
株式会社 ウッドワン	株式会社 ウッドワン
クリナップ株式会社	クリナップ株式会社
JA三井リース株式会社	JA三井リース株式会社
株式会社 白子	株式会社 白子
センコー株式会社	センコー株式会社
東京センチュリーリース株式会社	東京センチュリーリース株式会社
東武鉄道株式会社	東武鉄道株式会社
西松建設株式会社	西松建設株式会社
日本食品化工株式会社	日本食品化工株式会社
株式会社 フジ	株式会社 フジ
保土谷化学工業株式会社	保土谷化学工業株式会社
株式会社 三菱ケミカルホールディングス	株式会社 三菱ケミカルホールディングス
雪印種苗株式会社	雪印種苗株式会社
日本農産工業株式会社	日本農産工業株式会社
株式会社 荏原製作所	株式会社 荏原製作所
ケイヒン株式会社	ケイヒン株式会社
信越化学工業株式会社	信越化学工業株式会社
株式会社 東武百貨店	株式会社 東武百貨店
日東富士製粉株式会社	日東富士製粉株式会社
株式会社 ラクト・ジャパン	株式会社 ラクト・ジャパン

※平成28年4月4日現在

一般社団法人アグリフューチャー・ジャパンが、「日本農業経営大学校」を運営しています。